落語「らくだ」の東西比較

—ののしりの助動詞を中心に—

村中 淑子
桃山学院大学
tmuranaka@andrew.ac.jp

East-West Comparison of Rakugo “Rakuda” : Focusing on the Auxiliary Verbs of Abuse

MURANAKA Toshiko
St. Andrew’s University

Key Words: Rakugo, Character, Situation, Narrator

要旨

上方落語と江戸落語の共通演目「らくだ」におけるののしりの助動詞の使用状況を比較した．上方では6種類ののののしりの助動詞が出現し，人物の特徴を表すもの，人物の置かれた状況を反映するもの，誰でも使うもの，と分けられそうであった．江戸にはののしりの助動詞がヤガルしかなく，人物の置かれた状況を反映するもののようである．類似の言語項目で，人物の性質を表すものとして命令形，誰でも使うものとして母音の融合形，があるように思われた．上方の語り手と江戸の語り手の姿勢が異なる可能性も示唆された．

１　はじめに

東西の落語資料を比較して，ののしり表現のはたらきを検討する．ののしり表現として主に，ヤガルやサラスなどのののしりの助動詞を取り上げる．

本稿で「ののしり」と呼ぶのは，面前の相手への罵倒も含むが，それだけではない．目の前に対象がいるかいないかにかかわらず，対象にマイナスの対人的影響が及ぶことを志向した一群のことばを「ののしり」と称する．たとえば，目の前にはいない人の顔を思い浮かべながら「ちくしょう，あの野郎」などと独り言を言う場合なども含める．ののしりの気持ちが本気であるかごく軽いものであるかは問わず，ののしりの意を含む語形ベースで考察する．

東西比較を行うのは，関東と関西で，会話を形づくる方法が異なるのではないかという予測に基づいている．なかでも，会話において，ののしり表現がどのように使われ，どの

ように働いているかに注目したい．

落語を資料とするのは，作り物の演じられた会話であっても，やり取りがダイナミックであり，特徴を取り出すのに適すると思われるからである．落語においては，実際の話者は落語家一人だけであるが，落語家によって演じ分けられる数人の話者が登場し，ひとつづきの会話の流れの中で，話し相手による言葉づかいの変化や，場面・状況による言葉づかいの変化が観察できる．落語は話芸の専門家によるもので，笑わせたり感動させたりするための技巧が凝らされており，自然会話とは異なる特徴を持つことが想定されるが，その一方で，いかにも実際のものらしく感じさせるように演じられていて，市井の人々の会話をリアルに映し出す部分も多いと思われる．自然会話に準じたものとして考察の対象としてもよいであろう．

そこで本稿では，上方落語と江戸落語の口演 CD を用いて，会話におけるののしり表現について考察することとした．

２　対象と方法

２．１　「らくだ」と分析手順

上方落語と江戸落語の共通演目「らくだ」を扱う．もとは上方落語の演目で「らくだの葬礼」と呼ばれていたものを，三代目柳家小さんが東京へ移したとのことである（東大落語会　1994）．「らくだ」にはののしり表現が多く出現することが見込まれる．大ネタであり，登場人物が比較的多いことも分析に向いていると思われた．

用いた落語口演 CD は次の通り．上方落語と江戸落語それぞれ 1 種類ずつである[1]．

①上方落語の「らくだ」

六代目笑福亭松鶴「らくだ」49 分 39 秒（1973 年 9 月録音　録音場所：MBS 第一スタジオ）『六代目笑福亭松鶴セレクト二』disc 1（ビクターエンタテインメント）

② 江戸落語の「らくだ」

六代目三遊亭圓生「らくだ」56 分 49 秒（1961 年 10 月 31 日　東横ホール　五代目追善三遊亭圓生独演会より）『名人　六代目三遊亭圓生　その八　らくだ』（EMI ミュージックジャパン）

分析には次の手順を踏んだ．

上方落語と江戸落語の「らくだ」口演 CD の音声を聞き取り，文字に起こす．上方落語の方は，音声情報のみを用いての文字起こしである．江戸落語の方は，CD 付属の冊子に文字起こしが載せられていたため，それに追加・修正を施す形で，聞き取りを行なう．

文字起こしデータから，ののしりの助動詞を抜き出して数え，表を作る．
表をもとに，比較を行い，考察する．

２．２　「らくだ」のあらすじと構成

演目「らくだ」のあらすじは，次の通りである．

「らくだ」というあだ名の嫌われ者の男のところに，兄弟分の男「やたけたの熊（熊五郎）」が訪ねてくると，らくだは死んでいた．前夜に食べたフグの毒にあたったらしい．そこへ屑屋が通りかかる．熊五郎は，らくだを弔う費用を得るために，屑屋に家財を買い取らせようとするが，めぼしいものは何もないと屑屋は断る．熊五郎は屑屋に，長屋の月当番のところへ行って香典をもらって来いと命じ，気弱な屑屋は渋々応じる．次に熊五郎は屑屋に，長屋の家主のところへ行って，酒と煮しめとご飯を持って来させるようにと命じる．もし家主が応じない場合は，らくだの死骸にカンカンノウ[2]を踊らせると言え，という．屑屋がその通り伝えると，家主は酒や煮しめやご飯などとんでもないと断ったため，屑屋はらくだの死骸を家主のところに担ぎ込み，カンカンノウを歌う羽目になる．次に漬物屋（江戸落語では八百屋）でも同様の手を使って，棺桶がわりに樽をもらう．そこへ家主から酒肴が届き，熊五郎は帰りたがる屑屋に酒を飲ませる．酒を飲み，酔いが回った屑屋は，それまでのおとなしい態度が一変し，身の上話を長々と話し，それまで脅しつけられていた熊五郎を逆に脅したりし始める．屑屋と熊五郎はらくだを樽に入れて，二人で火葬場へ担いでいく．途中で樽の底が抜けてらくだの体を落としてしまい，慌てて拾いに行くが，酔っ払って道端に寝ていた願人坊主（乞食坊主）を間違って樽に入れる．火葬場でその坊主が目を覚まし，「ここはどこだ」「火屋だ」「ヒヤでもいいからもう１杯」．

最後の「火屋」と「ヒヤ」が同音異義語で，オチとなっている．

中心人物は熊五郎と屑屋の二人で，ほかに，長屋の月当番，長屋の家主，近所の漬物屋（江戸では八百屋），隠亡（火葬場で働く人，江戸では安公という名），願人坊主（乞食坊主），が登場する．登場人物は全員男性である．

上方と江戸でセリフに違いはあるものの，話の内容はほとんど同じである．ただし，上方では，熊五郎と屑屋がらくだを火葬場へ運ぶ途中に，砂糖屋の丁稚や主人と交わす短い会話が挿入されるが，江戸の方にはそれがない．屑屋が酔った時の，身の上話の内容が異なる．最後の方で，らくだを落としたことに気づくタイミングも少し異なる．

表１に，話の内容と，それに対応する上方・江戸の発話番号を示す．まとまりごとにつけた記号は，後の考察で活用する．

表１　上方と江戸の「らくだ」の内容と発話番号

話の内容	上方	江戸	記号
語り手の前置き．熊五郎がらくだの死体を発見し，長い独り言．	1，2	1，2	A
屑屋の登場．熊五郎が屑屋に家財道具を売りつけようとして叶わず．屑屋が弔いのためのお金を出す．	3-23	3-31	B
熊五郎が屑屋に，月当番を訪ねて香典をもらうよう命じる．	24-37	32-43	C
屑屋は月当番にらくだの死を知らせ，香典をもらうことに成功．	37−45	43-58	D
熊五郎は屑屋に，家主を訪ねて酒や煮しめをもらうよう命じる．	46-53	58-75	E
屑屋は家主にらくだの死を知らせ，酒と煮しめを要求し，失敗．	53-67	75-105	F
熊五郎は屑屋にらくだの死体を背負わせて二人で家主を訪ねる．死人のカンカン踊り．家主は要求に応じる．	67-89	105-144	G
熊五郎は屑屋に，漬物屋/八百屋を訪ねて樽をもらうよう命じる．	90-95	145-160	H
屑屋は漬物屋へ行き，棺桶がわりの樽を手に入れる．	95-115	160-198	I
弔いの支度ができ，熊五郎が屑屋に酒を勧める．屑屋は断る．	116-126	199-211	J
熊五郎の強引な勧めに負けて，屑屋が酒を飲み始める．熊五郎が続けて勧め，屑屋はどんどん飲む．	127-132	212-229	K
酔っ払った屑屋の長ゼリフ．熊五郎を褒める．身の上話をする．	133	230	L
屑屋が飲み続けるのを熊五郎は止めようとする．屑屋は飲み続け，大きな態度で熊五郎に命令し始める．弔いのためらくだの髪を抜く/剃る．さらに飲む．	134-138	231-251	M
二人でらくだを火葬場に運ぶことになる．	139-143	252-263	N
通りすがりの砂糖屋の丁稚・主人とのやりとり．	144-151	（無し）	O
運ぶ途中で樽の底が抜けてらくだを落とす．慌てて戻り，道に寝ていた乞食坊主を間違って樽に入れる．火葬場で，隠亡とのやり取り．乞食坊主とのやり取り．	152-174	264-316	P

２．３　文字起こしについて

２．３．１　上方落語「らくだ」の文字起こし

上方落語の六代目笑福亭松鶴の「らくだ」の CD 音声を文字に起こしたものを，本稿の末尾に載せた（p.56 以降の「六代目笑福亭松鶴「らくだ」文字起こし（CD 音声 49 分 39 秒）」を参照のこと）．聞き取りは繰り返し行い，できるだけ音声に忠実に文字起こしするよう努め，漢字仮名交じり文で表記した．繰り返し聞いても明確でない部分については下線を付し，語の聞き取りが不可能な部分は「・・」で表した．感動詞などにおいて母音や子音の発音が標準的でなかったり，「ははははは」や「おおおおお」などの短い繰り返し発音の回数の聞き取りが難しかったりして，カナでは正確に音声を写したとは言えない部分

があるが，近い発音を表すと思われるカナ表記にした．

句読点は，発話が途中で一休みした，あるいはひとつづきの発話がひとまず終了した，という印象によってつけたものである．必ずしも文法的な区切りに従って句読点を打ったわけではない．

話者が交代するごとに，発話番号を振った．話者交代は，口調と内容から概ね明瞭であったが，酒を飲んで酔っ払った後の発話に，屑屋なのか熊五郎なのかややはっきりしない部分があった．例えば発話番号 136 のセリフである．これは前の 135 や後ろの 137 と口調があまり変わっておらず，屑屋の発話がずっと続いているようにも聞こえるが，136 の部分の内容からここだけ熊五郎に交代したものと判定した．また，逆に，141 の「ソーーレンや，ソーレンや」は屑屋と熊五郎が掛け合いで発話してもおかしくない文脈だが，内容から確実に話者交代したとは判定できず，口調も変わっていないように聞こえるため，屑屋一人の発話であると判定した[3]．

２．３．２　江戸落語「らくだ」の文字起こし

江戸落語の六代目三遊亭圓生「らくだ」は，口演 CD 付属冊子の文字起こしを確認すると，音声にかなり忠実ではあったが，話の内容把握に支障のないような多少の抜け・省略などが見られた．次のようなものである．

・感動詞の脱落．「ええ」「うん」「おう」「おい」「あのー」「まあ」「な」や，代名詞「おめえ」「これ」等の脱落した例があった．

・繰り返しの省略．例えば「買え買え買え」が「買え」になったり，「ここにいる，ええ，ここにいるよ」が「ここにいるよ」になったり，「しみじみ，しみじみ」が「しみじみ」になったり，「お届けを，お届けを」が「お届けを」になったり，「やるよやるよ，やるよやるよ」が「やるよやるよ」になったり，という例があった．

・音声的訛りの非表示．これは「第一（でえいち）」「お前（めえ）」「大概（てえげえ）」「葬式（ともれえ）」などのように，元々の文字起こしの漢字表記に発音に沿ったふりがなが振られているものもあったが，ふりがながなく，聞き取りの結果，「心配」の発音が「シンペー」，「使い」の発音が「ツケー」，「帰って」の発音が「ケエッテ」，「当り前」の発音が「アタリメエ」，「一杯」の発音が「イッペー」などと判明したものもあった．

・間違い．ごく僅かであるが，CD 付属冊子に間違いと思われる部分があった．音声聞き取りおよび前後の文脈から，発話 50 の「大損」は「おー，損」，発話 66 の「まだ行ったって」は「ただ行ったって」，発話 96 の「一つは払うんだ」は「一つは払うもんだ」，発話 106 の「机を早くしろ」は「つけえ（「使い」の音声的訛り）を早くしろ」，発話 264 の「日本一の死者だ」は「日本一の火屋だ」がそれぞれ正しいのではないかと思われたのでそのように修正を加える．

これらについて，聞き取れた限りで追加・修正を行った．上方落語の文字起こしと同様，話者交代ごとに発話番号を振った．発話 293 の乞食坊主のセリフの後，屑屋なのか熊五郎なのか判別し難いセリフが幾つかあったが，迷う場合は屑屋であるとした．上方落語の「らくだ」と同様，CD 音声を文字に起こしたものを，本稿の末尾に載せた（p.74 以降の「六代目三遊亭圓生「らくだ」文字起こし（CD 音声 56 分 49 秒）」を参照のこと）．

３　「らくだ」におけるののしり表現の出現

３．１　ののしりの助動詞の出現した数

六代目笑福亭松鶴の「らくだ」（以下，上方「らくだ」と呼ぶ）は発話数 174，六代目三遊亭圓生の「らくだ」（以下，江戸「らくだ」と呼ぶ）は発話数 316 であった．上方「らくだ」は 49 分 39 秒，江戸「らくだ」は 56 分 49 秒であるから，1 発話あたり平均で上方 17.1 秒，江戸 10.8 秒である．江戸の方が，頻繁に話者交代をしている．

ののしりの助動詞と思われるものを数え，人物ごとにののしりの助動詞の出現した「発話の数」を示したものが表２と表３である．表２・３には全ての登場人物を示した．なお，明らかに他の人物のセリフを引用した中に出現した場合は，当該人物の使用とはみなさず，含めないことにした．

表２　上方落語「らくだ」：ののしりの助動詞の出現した発話の数

人物	ケツカル	ヤガル	サラス	クサル	テウセル	ヨル	計	発話数
語り手	0	0	0	0	0	3 (5)	3 (5)	7
屑屋	4 (9)	2 (2)	0	0	0	3 (5)	9 (16)	78
熊五郎	1 (6)	4 (4)	3 (3)	0	1 (1)	3 (5)	12 (19)	49
家主	0	0	0	1 (1)	0	2 (2)	3 (3)	11
月番	0	0	0	0	0	1 (1)	1 (1)	4
漬物屋	0	0	0	0	0	1 (1)	1 (1)	10
隠亡	1 (1)	1 (1)	1 (1)	0	0	0	3 (3)	6
願人坊主	0	0	0	0	0	0	0	5
砂糖屋	0	0	0	0	0	0	0	3
丁稚	0	0	0	0	0	0	0	1
計	6 (16)	7 (7)	4 (4)	1	1	13 (19)	32 (48)	174

カッコ内は助動詞の出現数.

上方落語におけるののしりの助動詞の用例を示す.

（ケツカルの用例）

発話 02（熊五郎）：敷居，枕に，足，庭へほりだしてどぶさって<u>けつかる</u>．（敷居を枕に，足を庭に放り出して，寝ている．）

（ヤガルとサラスの用例）

発話 02（熊五郎）：フグ食らいさらして，フグに当たってゴネやがってんな．（フグを食べて，フグに当たって死んだんだな．）

（クサルの用例：次の１つのみ）

発話 66（家主）：何を言いくさんねん．（何をいうのだ．）

（テウセルの用例：次の１つのみ）

発話 68（熊五郎）：どや，酒と煮しめとすぐ，持ってうせるか．（どうだ，酒と煮しめとをすぐ，持ってくるか．）

（ヨルの用例）

発話 40（月番）：長屋の連中にすぐに知らすわ，皆喜びよるわ．

表３　江戸落語「らくだ」：ののしりの助動詞の出現した発話の数

人物	ヤガル	発話数
語り手	0	4
屑屋	13(33)	153
熊五郎	9 (23)	95
家主	3 (4)	18
月番	1 (1)	6
八百屋	1 (3)	18
安公（隠亡）	0	14
願人坊主	0	8
計	27 (64)	316

カッコ内は助動詞の出現数．

（ヤガルの用例）

発話 02（熊）：返事がせん，寝込みやがったのか．

結果として，次のことが言えるだろう．

(1) 上方「らくだ」・江戸「らくだ」ともに，ののしりの助動詞が出現した．

(2) 上方「らくだ」に出現したののしりの助動詞はケツカル，ヤガル，サラス，クサル，テウセル，ヨルの6種類であった．江戸「らくだ」に出現したののしりの助動詞はヤガルの1種類のみであった．

(3) 上方「らくだ」で発話数が多いのは屑屋の発話数78，熊五郎の発話数49であった．この2人の発話で全体の発話数の約73%を占める．江戸「らくだ」では屑屋の発話数153,

熊五郎の発話数95，この2人で全体の発話数の約78%を占める．上方「らくだ」でののしりの助動詞を最も多く使っていた人物は熊五郎であり，5種類を計19回使用，次に多いのが屑屋で，3種類を計16回使用していた．江戸「らくだ」でののしりの助動詞を最も多く使ったのは屑屋で33回，次が熊五郎の23回，いずれもヤガルのみである．

(4) 上方「らくだ」では，語り手が，ごく軽いののしりの意味を含む助動詞ヨルを使用していた．一方，江戸「らくだ」では，語り手はののしりの助動詞を使っていない．

(5) 上方「らくだ」において，家主だけがクサルを使用し，熊五郎だけがテウセルを使用していた．サラスは熊五郎と隠亡だけである．隠亡は発話が6回しかなく，1回の発話もさほど長くないが，3種類ののののしりの助動詞（ケツカル，サラス，ヤガル）を使っていた．ののしりの助動詞は登場人物の特徴を描き分ける方法の一つと考えられる．

(6) 上方「らくだ」で使用する人物の一番多いののしりの助動詞はヨルであり，語り手も含めた6人の人物が使用していた．上方のヨルは，キャラクターに関わらず誰もが使うののしりの助動詞であると考えられる．

３．２　ののしりの助動詞の出現した位置

ここでは，話の流れと，ののしりの助動詞の出現の関係を見る．発話数の多い屑屋と熊五郎の２人にしぼって，ののしりの助動詞が出現した発話を取り出して順に並べたのが表４と表５である．

表４　【上方】屑屋と熊五郎ののののしりの助動詞

発話番号	人物	ののしりの助動詞				
2	熊五郎	ケツカル６	サラス１	ヤガル１		
14	熊五郎					ヨル１
16	熊五郎					ヨル１
52	熊五郎			ヤガル１		
67	屑屋					ヨル１
68	熊五郎				テウセル１	
88	熊五郎		サラス１			
115	屑屋			ヤガル１		
116	熊五郎			ヤガル１		ヨル３
126	熊五郎		サラス１			
133	屑屋					ヨル３
135	屑屋	ケツカル４				
137	屑屋	ケツカル２				
141	屑屋	ケツカル２				
154	熊五郎			ヤガル１		
157	屑屋			ヤガル１		ヨル１
159	屑屋	ケツカル１				

語形の後ろの数字は出現した回数である．

表５【江戸】屑屋と熊五郎ののののしりの助動詞

発話番号	人物	ののしりの助動詞
2	熊五郎	ヤガル 7
4	熊五郎	ヤガル 1
6	熊五郎	ヤガル 1
18	熊五郎	ヤガル 2
20	熊五郎	ヤガル 2
26	熊五郎	ヤガル 1
74	熊五郎	ヤガル 1
199	熊五郎	ヤガル 7
221	熊五郎	ヤガル 1
230	屑屋	ヤガル 12
238	屑屋	ヤガル 1
240	屑屋	ヤガル 1
242	屑屋	ヤガル 1
260	屑屋	ヤガル 2
264	屑屋	ヤガル 3
266	屑屋	ヤガル 2
268	屑屋	ヤガル 1
288	屑屋	ヤガル 2
292	屑屋	ヤガル 2
302	屑屋	ヤガル 2
304	屑屋	ヤガル 3
308	屑屋	ヤガル 1

語形の後ろの数字は出現した回数である．

表４と表５から，上方落語でも江戸落語でも，まず，話の初めに熊五郎が登場する発話 2 において，ののしりの助動詞が多く使われていることがわかる．熊五郎はこのあと登場する屑屋を脅しつけて，月当番，家主，漬物屋に無理やり行かせ，香典や食べ物や樽などを入手させる．その流れを自然に感じさせるため，最初に熊五郎の人物造形をはっきりさせておく必要がある．そこでののしりの助動詞が一役買っていると考えて良いだろう．

屑屋によるののしりの助動詞は，酒を飲んで酔っ払った後半部に出現することがわかる．表 1 に示した通り，上方の「らくだ」では発話 133，江戸の「らくだ」では発話 230 が，酔っ払った屑屋の長いセリフである．上方の長ゼリフ 133 そのものにはヨルが出てくるだけだが，その後の 135，137，141 と立て続けにケツカルが現れる．江戸の方は，長ゼリフの 230 の中にヤガルが 12 回も織り込まれている．屑屋は酒を飲んで酔っ払い，人が変わったように多弁になり，態度が大きくなる．その「キャラ変」にののしりの助動詞が関わっていると見てよいだろう．

しかし，上方「らくだ」においては，いくらキャラ変しても，熊五郎ほどに多くの種類ののののしりの助動詞を使うわけではない．屑屋はサラスやテウセルは使わず，ヨル・ヤガ

ル・ケツカルを使っている．

江戸「らくだ」においては，屑屋の長ゼリフを境目にして，熊五郎にはヤガルの出現が全く見られなくなる．熊五郎は，屑屋の長ゼリフの後，すっかりおとなしくなってしまったのだろうか．ガラの悪い怖い人物からおとなしい人物へと，屑屋とは逆のキャラ変が起きたのだろうか．それを知るためには，ののしりの助動詞以外の項目も調べてみる必要があるだろう．

４　ののしりの助動詞以外の類似の要素について

ののしりの助動詞として，江戸の「らくだ」にはヤガルの1種類しか出現しなかった．そこで，ののしりの助動詞に似た働きを持ちそうな他の項目についても調べることにした．「らくだ」を聴き込んだ印象として，ののしりの助動詞に似たものとして，「命令形」と「母音の融合形」があるように思われた．その出現状況を表６・表７に示す．発話ごとではなく，表１で話のまとまりにつけた「記号」ごとに出現数を示した．「-」はそのまとまり部分にその人物の発話がなかったことを表す．

ここで数えた「命令形」は，「起きろ」「行ってこい」「言ってやれ」「歌え」「歩け」などのいわゆる命令形と，「こっちを向くな」「つけるなよ」などの禁止命令形である．ののしりの助動詞に類似した印象になるのは，命令形と禁止命令形であると考えたからである．「行ってこいってんだい」「よく聞いていけ，てぇんだよ」などの，自分で自分の命令を引用して念を押すような形も含めている．「向こう向きな」「言ってやんな」などは，指示命令の表現ではあるが，命令形ではないと判定し，含めていない．

ここで数えた「母音の融合形」は，アイがエーになったものと，アエがエーになったものとオイがエーになったものである．アイがエーになったものとしては「いねえのか（＜いないのか）」「あぶねえ（＜あぶない」）「こまけえ（＜こまかい）」「やりてえ（＜やりたい）」「時候ちげえ（時候ちがい）」「へえれ（＜入れ）」「ねえねえで（＜内々で）」などがあり，アエがエーになったものとしては「おめえ（＜おまえ）」「けえす（＜帰す）」「立てけえて（＜立て替えて）」などがある．オイがエーになったものとしては「ふてえ野郎（＜太い野郎）」がある．

なお，ののしりの助動詞を数えた時と同様，明らかに他の人物のセリフを引用した中に出現した場合は，当該人物の使用とはみなさず，含めないことにした．

表６　江戸「らくだ」屑屋の発話：命令形と母音の融合形の出現数

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	P	計
命令形	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	1	3	12
母音の融合形	-	2	2	0	2	3	1	0	1	0	0	19	21	14	43	108

表７　江戸「らくだ」熊五郎の発話：命令形と母音の融合形の出現数

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	P	計
命令形	2	1	3	1	4	-	9	5	0	0	2	-	3	1	3	34
母音の融合形	21	21	8	3	16	-	13	5	0	24	28	-	18	6	1	164

表６を見ると，屑屋の発話においては，ユニットLの長ゼリフの前には命令形が全くなく，母音の融合形も少ないが，ユニットLの長ゼリフの後には命令形が出現し，母音の融合形は極端に増えている．屑屋に焦点を当てると，命令形と母音の融合形は，ヤガルに似た出現の仕方である．

表７を見ると，熊五郎の発話においては，命令形も母音の融合形も，ユニットLの前後ともに出現している．ユニットL後に特に減ったという様子はない．つまり，熊五郎の場合は，命令形と母音の融合形は，ヤガルの出現状況とは異なるのである．

これはどういうことか．そこで，他の登場人物の「命令形」と「母音の融合形」の使用状況を確認してみる．当該語形そのものの出現数ではなく，当該語形の出現した発話数の一覧表が表８である．

表８　江戸「らくだ」において命令形と母音の融合形の出現した「発話の数」

	語り手	熊五郎	屑屋	月番	家主	八百屋	隠亡	乞食坊主	計
命令形	0	24	9	0	1	0	2	0	36
母音の融合形	0	60	38	4	5	7	9	1	124
各話者の発話数	4	95	153	6	18	18	14	8	316

語り手は，命令形，母音の融合形，ともに，ゼロである．

家主と隠亡は，わずかながら命令形を使っているが，月番・八百屋・乞食坊主は命令形の使用がゼロである．

母音の融合形は，語り手以外の全ての登場人物が使っている．

以上のことから，「母音の融合形」は，江戸の下町の人物であれば，キャラクターに関わらず，普通に使うものと考えられる．語り手が使っていないのは，話の中の登場人物ではなく，全体を見渡す立場にあり，生きた人間の味を出さないためかと思われる．

一方，「命令形」は，その人物がやや偉そうな強気の性格を持つことを表しているようだ．月番と八百屋はさほど自己主張が強くないが，家主は「因業」と自称するほどであり，ややアクの強い人物である．隠亡も，また熊五郎も，そのようである．「命令形」は人物のキャラクター作りに関与しているものと考えられる．

ヤガルは，その人物の元々の性格というよりも，その時点での態度を表しているものと解釈できよう．

５　まとめ

以上，上方と江戸の「らくだ」を比較し，ののしりの助動詞を中心に考察した．まとめると，次の通りである．

上方では，6種類ののしりの助動詞が出現した．語り手も含めた6人の人物が使うヨルは軽い意味あいのもので，キャラクターに関わらず気軽に使うことができ，最もポピュラーなものと見られる．家主しか使わないクサル，熊五郎しか使わないテウセル，熊五郎と隠亡しか使わないサラスは，それぞれの人物造形に関わりがあるのだろう．クサルは年配のやや落ち着いた人物を表す可能性があり，テウセルとサラスはやや粗暴な人物を表す可能性がある．それに対して，ケツカルは人物のキャラクターも表しつつ，その場の状況にも依存して使われるもののようである．ケツカルは熊五郎が登場の時に多く使ったほか，屑屋がへべれけに酔った状況でのみ，ケツカルを盛んに使っていた．

江戸には，ののしりの助動詞はヤガルしか見受けられない．発話回数の最も多い人物である屑屋がののしりの助動詞もたくさん使っていた．屑屋の長いセリフのあとは，熊五郎はヤガルを全く使わなくなり，屑屋は盛んに使うようになる．江戸のヤガルは，人物の性質を表すというよりも人物の置かれた状況を表すものかと思われる．類似の性質を持ちそうな項目を調べたところ，「命令形」が強気でやや偉そうな人物の性質を表すものであり，「母音の融合形」は江戸の下町の人物であれば誰でも使うもののようである．ののしりの助動詞ヤガル，命令形，母音の融合形一見，同じようなやや粗暴な印象を持つ言語項目であるが，使う人物や使われる話の流れから見ると，そのような違いがあるように思われた．

以上のように，上方では複数ののしりの助動詞があり，人物の特徴を表すもの，人物の置かれた状況を反映するもの，誰でも使うもの，と分けられそうである．それに対し，江戸ではののしりの助動詞がヤガルしかなく，人物の置かれた状況を反映するもののようである．似た言語項目で，人物の特徴を表すものとして命令形，誰でも使うものとして母音の融合形，があるように思われた．

なお，上方の語り手は軽いののしりの助動詞ヨルを使うが，江戸の語り手はののしりの助動詞も命令形も母音の融合形も使わない．江戸の語り手はあくまでも俯瞰した立場をとるのに対し，上方の語り手は話の中にやや参与する姿勢があるのではないかとも考えられる．

６　おわりに

「らくだ」のほかの演者の口演や，「らくだ」以外の落語口演を確認する必要もあるだろう．洒落本におけるののしりの助動詞の東西比較の結果と今回の結果との比較もいずれ行いたい．

【参考文献】
高島幸次，2022，『古典落語の史層を掘る』和泉書院.
東大落語会，1994，『増補　落語事典』青蛙房.

【資料】
「らくだ」（1961 年 10 月 31 日　東横ホール　五代目追善三遊亭圓生独演会より）『名人　六代目三遊亭圓生　その八　らくだ』（EMI ミュージックジャパン）.
「らくだ」（1973 年 9 月録音　録音場所：MBS 第一スタジオ）『六代目笑福亭松鶴セレクト二』disc 1（ビクターエンタテインメント）.

【謝辞】
「らくだ」を分析対象として選んだのは神田外語大学大学院言語科学研究科教授の木川行央氏からの示唆によるところが大きい．記して感謝申し上げます.

【注】
[1] 「らくだ」口演 CD は複数あるが，上方落語においては六代目笑福亭松鶴の口演が特に評判が高いようであるため，①を選んだ．江戸落語では五代目古今亭志ん生，八代目三笑亭可楽，六代目三遊亭圓生が得意としたとのことであるが，入手できた「らくだ」の CD のうち，五代目古今亭志ん生と八代目三笑亭可楽のものは口演年月日が不明であり，かつ，五代目古今亭志ん生のものは内容が一部カットされて 18 分 21 秒と短いため，②の六代目三遊亭圓生の口演 CD が①と比較するのに適当であると考えた.
[2] カンカンノウとはカンカン踊りとも呼ばれ，江戸時代，動物のラクダが日本に持ち込まれたのと同じ文政の頃に，ラクダと同じく長崎経由で入ってきた中国風の踊りで，大阪で老人から子供にまで大流行し，のちに江戸にも広まった．太鼓やトライアングルのような鐘を鳴らしながら「かんかんのう　きゅうのです　きゅうはきゅうです」などと歌う．元歌の清楽「九連環」の歌詞がそのまま口伝えされて流行ったらしい（高島 2022）.
[3] 今回は CD 音声からの文字起こしであったが，DVD 等の動画に基づいて文字起こしをすれば，首を振る動作の有無によって，話者交代したかどうかが明らかになった可能性もある.

六代目笑福亭松鶴「らくだ」文字起こし（ＣＤ音声 49 分 39 秒）

＜凡例＞

下線：明確でない部分

・・・：語の聞き取りが不可能な部分

＜＞：酒を飲む様子や戸を叩く音など，発話そのものではない部分

001 語り手：このお話は，大阪に，ノバク（野漠）というところがございまして，その，ノバクの長屋の出来事でございますが.

002 熊五郎：おう．らくだ．おのよう．けつからへんのかい．おう．らくだ，よう．何をさらしてけつかんねん．けつからへんなあと思ったらここにどぶさってけつかる．また何というどぶさりよう，さらすねんこのガキャ．えーっ．わがうちやないかい．遠慮も気兼ねもないがな．座敷の真ん中でどぶされ，どぶさんのやったら．また器用などぶさりよう，さらしてけつかるで．えーっ．敷居，枕に，足，庭へほりだしてどぶさってけつかる．おい，おの，らくだ．起きれ．あれ．なんじゃどぶさっとんねんと思ったらゴネてけつかる，このガキャ．そうか．枕元に鍋がかかったんな．そこらに魚の骨が散らばったんな．ははあ．ゆうべ，日本橋でおうたら，フグ下げて歩いてけつかった．シュンはずれのフグみたいなん食うの危ないぞちゅうといたのに．フグ食らいさらして，フグに当たってゴネやがってんな．えらいことさらしたで．このガキャ親兄弟がないねん．なあ．一人もんや．まあ俺は常から兄弟分とか兄貴とか言われてんねや．こんな姿になっとんのほっとくわけにいけへんが．と言うてやで．ここのところ，バクチではずーっと負け続けや．なあ．出たら取られるミョウガの子，ちゅうやっちゃ．フトコロにはいちもーんもゼニがないねや．しかしせめて，ソーレン（葬礼）の真似事なとしたりたいな．こら困ったことになったで.

003 紙屑屋：くずー，たまってまへーん.

004 熊五郎：おう，ええとこへ屑屋がうせたな．おうっ．屑屋！

005 紙屑屋：ええっ．お呼びでっかいな.

006 熊五郎：こっち入れ.

007 紙屑屋：へ，なんぞ，買わしていただきまひょか.

008 熊五郎：おう，すまんがなあ，訳があって，やざい家財みな売り払いたいねんが，買うてくれるか.

009 紙屑屋：へえ，買わしていただ，あ，ちょっと，待っとくれやっしゃ．いえ，間違うてたら堪忍しとくれやっしゃ．確か，ここは，らくだはんのおうちでしたな.

010 熊五郎：そうや．らくだのうちや．われなんかい．らくだ知ってんのかい．

011 紙屑屋：へえへえ．もう絶えずこの長屋へ商いに来とりますので，よう存じとりますんです．ええ，あのー，昼飯どきなんか，よう，あの，弁当つかうの，ここでつかわしていただきまして．へえへえ．お茶やおまへん，へえ，水呼ばれたりしまして，ええ．ほん，心安うさしてしただいとりましたんですが．らくだはん，どこぞ行きはったん．

012 熊五郎：そや．まあ，いたと言やあ，いたようなもんやな．

013 紙屑屋：あ，さよか．ほで，あとへ，あんさんがお入りになった．

014 熊五郎：いや，そやないねん．らくだはな，ゴネよったん．

015 紙屑屋：なんです？

016 熊五郎：ええ，らくだは死によったん，て．

017 紙屑屋：らくだは死によったて，いや，ほんまでっかいな．えっ．ああ，さよか．ここにいはんの，ええええ，らくだはんで．ハハハハハハ，さよか．いいえ，常々いつでもね，言うたはるんだ，どこそこで何人叩き切ったとかね，何人殺したとかね，ええええ，たえず聞いとりましたん．強いお方やなとおもてたんだ．はあこんな強いお方，人に殺されても死なんようなお方やとおもてました．へえ，フグ食べてフグにあたって死にはりました．うーハハハハハ，さよか．しかし，考えてみると，人間も，死にようのあるもんでんな．

018 熊五郎：んなおかしなものの言い方すな．それについてな，こいつは親兄弟，だーれも身寄りがないねん．へで俺は，このらくだの兄弟分でな．やたけたの熊，ちゅうもんや，はあ．ほでー，せめてな，ソーレンの真似事でもしたりたいと思てんねがな．恥言わなわからん．ここのところずーっとバクチに負けづめや．フトコロに一文も銭がないね．んでな，まあせめて，やざい家財売り払うて，へで，その銭でソーレン出したろうと思て．

019 紙屑屋：それやったら，親方，なんでんね．へえ，もうあの，この，らくだはんとこのうちのもんやったら，たいていもう，全部わたい買わされたんで．へー，いえいえ，買わされたって，言葉に語弊がおますけど，いいえ，もう，んなもん値打ちも何にもないもんね，無理矢理に買わされたようなもんで．へえへえ．そうですさかいにへえ，もうあの，買わしていただくもん，おまへんわ．

020 熊五郎：んなことあるかい，われ．まだ，畳，建具があるやないかい．

021 紙屑屋：ハハハ，親方うだうだ言いなはれ．畳，建具やて．ここのあんた畳言うたら，タータ言うたらミがおまへんで．しんが出てまっせ．

022 熊五郎：なるほど．われの言うた通りやな．タータちゅうたらミが無いか．んなら，床几はどないや．

023 紙屑屋：へえ，これタコ床机言いましてね．へえ．骨がおまへんねや．ハハハ，こんなもん持って帰って肥やしにもなれしまへんね．へえ．えらいすんまへんです．あ，しかしな，親方，えらい失礼でおますけどな，いえいえ，あの，こんなことしたら怒りはるかわかりまへんねが，ワタイも常々，さっきも言いましたとおり，心安うさしてもろてましたんで．ええ，本来なれば，紙に包んで出さんなりまへんねが，なんしあんた，今，商いに出てきたとこで，へえ．いえ，あの，商いのもとででんねん，大した銭持ってえしまへんねん．ほんの僅かでおます．ハダカでえろう悪おまんねんけど．せめて，折れた線香の半分でも，あげたげとくんなはれ．

024 熊五郎：なにかい，紙屑屋．われ，それ，らくだにやったってくれんの．やー，おおきに，ありがと．えらいすまなんだ．時に，紙屑屋．われに，ちょっと頼みがあんねが，聞いてくれるか．

025 紙屑屋：親方，あの，今も言うた通りね，ゼニは持って

026 熊五郎：いや，俺はなにも，われに銭を貸してくれ，ちゅうのやない．俺や，らくだとは兄弟分やが，滅多にここのうち，来ることはないねん．そやさかいこの長屋の勝手がわからん．われ，さっき聞きゃ，この長屋へたえず出入りしてるらしいな．どこの長屋にも月番とか，また当番とかいうもんがあるはずや．われ，何か．ここの，長屋の月番，誰や知ってるか．

027 紙屑屋：あ，それでしたら，あの，こぐちのラオ仕替え屋はんが．今月の当番でおます．

028 熊五郎：ああ，そうか．たいていの長屋はな．泣き笑いともにツナギちゅうもんがあるはずや．すまんけど，われ，これから行ってな，「らくだがゆうべ死にました．それについて，香典を集めて持ってくるように」，ちょっとそれ，われの口から言うてほしいねんけど．

029 紙屑屋：ああ，さよか．へ，承知しました．しかし親方，あの，それくらいの言付けやったらせんことはおまへんのやけどね，おそらく，あかんと思いますけどね．

030 熊五郎：なに？　あかんて，なにがあかんね．

031 紙屑屋：らくだはんとは，常から長屋の付き合い，したはらしまへんさかいね．へえ．もうどっちか言うたら長屋の連中はもう，らくだはん鼻つまみでっさかい．おそらく，あかんと思いますけど．

032 熊五郎：ええやないかい．行ってこい．んで，もしもな，われがいて，持ってくるのこんのとぬかしたら，かめへんわ．ちょっと言うとけ．今，兄弟分のやたけたの熊五郎ちゅう男が来てる．いずれ後から，ドス持ってご挨拶に来ると，それだけ言うといたらええわ．

033 紙屑屋：あ，さよか．へえへえわかりました．ほならわたい帰り道です

034 熊五郎：ああ，ちょっと待て，ちょっと待て．こんな使いに行くのに，商売道具持って行くやつあるかい．そこへ置いとけ．

035 紙屑屋：これあの，わたいの大事な，商売道具でんね．へえ，かごとち

036 熊五郎：わかったるわい．そこへ置いとけ．俺がちゃんと番してたるさかい．

037 紙屑屋：さよか，ほなら，行ってきますさかい．さっぱりワヤや．ええ．朝から商い，せん先からこんな使いさされて．さっぱりワヤやな．おはようさんで．

038 月　番：ああ，紙屑屋さんか．なんぞ用事か．

039 紙屑屋：へえ，あのう，ゆうべ，らくだはんが死にはりまして．

040 月　番：えっ，らくだが死んだ．ほんまかいな．うっはははははははは，そうか，おおきにはばかりさん．よう，知らしてくれた．長屋の連中にすぐに知らすわ，皆喜びよるわ．

041 紙屑屋：へ，それについてね，あの，兄弟分のやたけたの熊五郎はんちゅう人が来たはりまんねん，へえ．そのお方のおっしゃんのには，えー，ソーレン出すのについて，ゼニがいるらしおまんねん，へえ．この長屋には，泣き笑いともにツナギがあるはずやさかい，香典あつめてすぐに持ってくるようにと，こない言うたはりまんねん．

042 月　番：紙屑屋，あんた知らんやろけどな，この長屋にあいつにそんなことする奴は一人もないねん．せっかくやがな，そんなもんはでけんと，その，熊五郎とか言うやつに言うとき．

043 紙屑屋：あ，さよか．どっちみちそやろとわたいも思てたんだ，へえ．ところがね，その，熊五郎はんのおっしゃんのには，持ってくるのこんのとぬかしたら，いずれ後ほど，その熊五郎はんがね，ドス持ってご挨拶．

044 月　番：ドス持って．いや何かいな，そんなすごい奴か．いやようわかったわかったわかった．今わしの言うたこと帰って言うたらあかんで．え，あの，この長屋，なんぼなんぼの決めはないけど，集めるだけ集めてすぐに持っていくと，そない言うといて．

045 紙屑屋：あ，さよか．へ，ほな，そない言うときます．へ，親方，いて参じました．

046 熊五郎：あ，おおきに，はばかりさん．何かい，香典持ってくる，えっ，すぐに，あつめて持ってくるてか．あああああ，おおきに，はばかりさん．それから，われにたんねんねんが，われ何か，ここの家主のうち，知ってるか．

047 紙屑屋：ええ，家主さんとこのうちでしたらね，このろうじかどです．ええ，すぐにわかりま．

048 熊五郎：いや，何も家主のうちを聞いてんのやない．われが知ってるか，ちゅうてんねん．知ってんのんか．知ってんのやったら，家主のうちい行ってな，お忙しい中わざわざ来ていただかんでも結構でおます．らくだが死にましたんで今晩夜伽をせんならん．飲まず食わずでは具合が悪いさかい，酒のえ

え奴，三升，あ，言うとくで．悪い酒はいきまへんと．いや悪い酒飲まされると，明くる日，頭に残ります．皆，出商売の人間ばっかり．商売に差し支えますさかい．酒のええ奴，三升と，ほでおーきな丼鉢に煮しめ，ああ，高野豆腐やとか大根やとか，こんにゃくやとか，ちゃーんと煮しめをば，ちゃんとして三杯持ってくるように，そない言うとけ．

049 紙屑屋：そら，言わんことはおまへんけど，それもたぶんあかんと思いますけど．

050 熊五郎：なんぼ言うたらそういうこと抜かすな．ほんなら言うとけ．もしも持ってくるのこんのとぬかしたら，あの，らくだという男は身より頼りがおまへん．まあ家主さんと言やあ親同様のお方．お宅へ死骸を運ばしてもらいますと．ほで，死骸持ってきただけでは，なんでおますさかいに，来たついでに，死人のカンカン踊りを見てもらいますと，これだけ言うてこい．

051 紙屑屋：ああ，さよか．へえ，わかりました．ほならわたい，あの帰り道．

052 熊五郎：ちょっちょっと待てっちゅうの．いちいちその商売道具を持ちやがって，こっち貸せ．預かっといたるさかい．こんなもんお前，手ぶらで行くもんや．行ってこい，返事聞かんならんさかい．

053 紙屑屋：親方，あの，すんまへんけど，頼みまっせ．へえもうそれ，あんたらに取ったらなんでもないもんですけど，わたいらに取りましたら商売道具ですさかい，一つ，ほならよろしいお願いしま．ほないて参じま．ムチャな奴やで，えー．持ってくるのこんのとぬかしたら，死人のカンカン踊りやて，ようあんなムチャ言うな．こんにちは．

054 家　主：はい，どなたじゃな．ああ，紙屑屋はんかいな．お前さん，昨日来たんと違うか．紙屑ちゅうのはそない毎日出るもんやない．

055 紙屑屋：いえ，あの，今日，商いに来たんやおまへんね．へえ，あの，お宅の長屋のらくだはんがゆうべ死にはりまして．

056 家　主：え，らくだが．ほ，フグに当たって死によったて．うっはははははは．そうかあ．よう知らしてくれた，紙屑屋．婆さん，聞きなさったか．ああ，あのらくだが死んだらしい．ああ，えっ，こんなめでたいことはないてか，そうじゃ．ようようまあ死んでくれたんで助かったわ．やあおおきに，はばかりさん．

057 紙屑屋：ええ，それについて，あのらくだはんの兄弟分のね，やたけたの熊五郎はんちゅう人が来たはりまして，へえ，で，そのお方が，あのー「夜伽の真似事をせんなりまへん．あの，お忙しい中わざわざ来ていただかんでも結構でおます．」とこない言うてはりました．

058 家　主：誰が行くかい．

059 紙屑屋：へえ，そうですさかいね，わざわざ来ていただかんでもよろしおますさかい，あのー飲まず食わずでは具合が悪いさかい，酒のええ奴三升，ほれも悪い

酒はいきまへんね，みな，出商売がおまっさかいね，悪い酒飲むと明くる日残ります，頭に，へえ．商いができんようになりますので．ほであの，ええ酒をば吟味して三升と，ほで大きな丼鉢へ，あの，えー，こんにゃくやとか，それからあの，高野豆腐やとか，ほで大根やらと，いろいろ煮しめを炊いて，ほで三杯，届けるようにと．こない言うたはりまんね．

060 家　主：誰がい．

061 紙屑屋：いえ，その，熊五郎はんちゅう，お方が．

062 家　主：帰って言うとけ．熊五郎ちゅう奴に．なんでそんなことウチがせんならん．なるほど，あらあウチの借家人や．らくだちゅう奴．あのな，たいていの人間ならやで，入った月ぐらいは，家賃納めるもんや．ええ．あの男，ウチの長屋へ来て今日が日まで一文の銭もはろたことないねん．そんな奴になんでそんなことせんならん．まあまあ，死んでしまいよってんさかいな．今更どうのこうの，ちゅうわけやない．そやさかいな，今までたまった家賃は，香典がわりに，帳消しにすると．そない言うとけ．えっ．ようそんな，ど厚かましいこと言うで．酒のええ奴，三升と煮しめが三杯．帰ってそない言うとき．誰がそんなことするかい，ちゅうて．

063 紙屑屋：さよか．ほんで，もしもあの，持ってくるのこんのとぬかしたら，

064 家　主：誰が．

065 紙屑屋：いえ，あんさんが．へ，ほならあの，らくだはんちゅうのは身より頼りがないそうでんねん．ほで家主さんちゅうたら親同様やさかい，ほでお宅へあの，死骸をはこばしてもらうと，こない言うてはりまんねん，へえ．ほんで運んできただけではなんでおますさかい，来たついでに，死人のカンカン踊りを見てもらいますと，こない言うたはりました．

066 家　主：何を言いくさんねん．はははははは．あのな，紙屑屋はん．あんたは知ろうまいがな，わしゃな，このしちょう界隈きってな，え，ちょっとは人に知られた，ま，因業家主や．え，他の家主ならそんなこと聞いたら驚くか知らんが，せっかくやがわしはそんな脅しには乗らんねんさかい．あー結構結構，初もんや．死人のカンカン踊りちゅうのは．初もん見たら 75 日長生きする，ちゅうな．ああ，長生きさしてもらお．あ，いつでも見してもらうさかいて，そない言うとき．

067 紙屑屋：あ，さよか，ほな，帰って，そない言いまっさ．ああら，上には上があるもんやで．ええ，見してもらうちゅいよったで．ええ，親方，いて参じました．

068 熊五郎：どや，酒と煮しめとすぐ，持ってうせるか．

069 紙屑屋：いえ，それが，持ってけえしまへん．

070 熊五郎：何？　持ってけえへん？

071 紙屑屋：へえ，もうあのー，家主さん言うたはりました．なんでそんなことする義理があんねん，ちゅうて，へえ．たいていの人間は宿替えしてきた月くらい，家賃納めるもんやと．あの，らくだちゅう奴は，来た日から今日まで，一文も家賃，払うたことがないと．そんな奴にそんなことする必要ないと．こない言うたはりました，へえ．

072 熊五郎：ほで死人のカンカン踊りは言うたんか．

073 紙屑屋：へえ，言いました．ほならあのう，言うたはりました．初もんや．へえ，75 日長生きさしてもらうと，こない言うたはりました．

074 熊五郎：何？　見るとぬかしたんか．よし，紙屑屋，そっち向け．

075 紙屑屋：へ？

076 熊五郎：そっち向け，ちゅうねん．ええな．しっかりしてよ．やっとしょ．

077 紙屑屋：もし，もし．なんや背中いドスンと乗せはりました．あっ．これ，らくだはんと違いま．もし，そんなムチャしたらいかん．わたいの背中へらくだはん乗せて．あー気持ちわる．すんまへんけど，ちょっと，らくだはんの顔，そっちいやってもらえまへんか．わたいのほっぺたへらくだはんの顔がひっつきまんねん．あー気持ちわる．あーら死人てわるわるう冷たいもんでんな．親方これ，せたろうて，どないしまんねん．

078 熊五郎：家主のうち，案内せえ．んで向こう行ったらな，俺が，呼んだら，入ってこい．ええな．んで，われはその，らくだのまたぐらへドタマ突っ込んでな，え，足使え．俺は手え持ってな，死人のカンカン踊り，おど

079 紙屑屋：ああようそんな，ムチャなこと，言わんといて．わて，そんなこと，ようしまへん．

080 熊五郎：何？　ようしまへん．何かい．われ，俺の言うことは聞けんちゅうのか．え？よし，聞くな．聞かんでもええわい．それやったらオノレから先，その土手っ腹踏み破って，

081 紙屑屋：いや行きま行きま，行きま行きます．ううううう．エライ目にあうなあ．まさかこんなことになるとは思わなんだ．なあ．ゆうべの夢見が悪かったわい．たぬきと相撲取ってる夢見た．今日はこないしてらくだせたろうて歩かんならん．親方，ここのうちでおます．

082 熊五郎：俺が呼ぶまで，そこで待ってえよ．ごめんなはれや．

083 家　主：はい，どなたじゃな．

084 熊五郎：らくだの家主っちゅうのは，われかい．

085 家　主：はい，わたしじゃが，どうかしましたか．

086 熊五郎：俺はらくだの兄弟分の，やたけたの熊，ちゅうもんや．なんやてな，われ，死人のカンカン踊りを見せていただきまして，75 日長生きをさしてもらう，とぬかしたらしいな．え，よし．長生きさしたら．おい，紙屑屋．こっち

持って入ってこい．われ，それ，ドタマ，股ぐらへ突っ込んで乳くませえ．俺が手エ持って，

087 家　主：ちょっとちょっと待った，入ったらいかん，これ，紙屑屋はん．入ったらいかん，ちゅうねん．わかったわかった．すぐに，酒も煮しめも，届ける．あーこっちい，こっちい入ってきたらいかん，ちゅうねん．もう，そんなややこしい顔，こっちい，向かしたらいかん．そっち，そっち向いとくれ．そっち，あーーわかりました．すぐに，酒も煮しめも，届けるで，帰っとくなされ．

088 熊五郎：届けさらすのんか．持ってくるんかい．のっけからそうせえ．余計な手数かけやがって．おい，紙屑屋．連れて帰れ．

089 家　主：おおおおおおおお．

090 熊五郎：いや，おおきにはばかりさん．あっと，そうっと置いたれよ．手荒うすな．ホトケに傷がつくといかんさかい．さっ，そこへ置いとけ．そらあそうと，紙屑屋．

091 紙屑屋：親方，堪忍しとくれやす．わたいもう，朝から商いしてえしまへんねん．いええ，うち帰ったら，かかや子供があんた，つばくろや無いけど，口開いてわたいの帰りを待っとりまんねん．商いに行かんなん．

092 熊五郎：わかったるわい．商い休めとは言うてへんわい．確か，ろうじ出て，南行ったら漬けもん屋があったやろ．向こう行って，あの，漬けもん桶の古いやつ，もろてこい．もしも，あかんとぬかしたら，借ってこい．え，何にするてかい．棺桶の代わりに使うねん．え，そやさかいな，今言うた通りや．あかんとぬかしたら借ってこい，ちゅうねん．空いたらすぐに返します，ちゅうて．

093 紙屑屋：んでもしも，それでもあかんちゅうたら，やっぱし死人のカンカン踊りでっか？

094 熊五郎：そらあ，われの好きなように言うたらええわい．行ってこい．

095 紙屑屋：へ，ほな親方，このカゴとチギと，頼んまっせ．情けのうになってきた，ほんまに．こんちわー．

096 漬物屋：おお，紙屑屋はん．今日，何もないで．

097 紙屑屋：あのう，商売に来たんと違いまんねん．すんまへんけど，あの，漬けもん桶の古い奴一つ，いただけまへんやろか．

098 漬物屋：漬けもん桶の古いのんが欲しいて，何にすんねん．

099 紙屑屋：へえ，ゆうべあのう，向こうの長屋のらくだはん死にはりまして．

100 漬物屋：えっ？　らくだが死によった．わっはははははは．そうかあ．長屋の連中皆喜んでるやろ．

101 紙屑屋：その代わり，わたい，泣いてまんねん．

102 漬物屋：どないしたん.

103 紙屑屋：へえ，兄弟分のやたけたの熊はんちゅう人が来たはりまんねん，へえ．ほで，お宅へいてね．漬けもん桶の古いのん，もろてこいと，こない言うたはりまんねん．ほんでもしもくれはらなんだら借ってこいとこない言うたはりまんねん.

104 漬物屋：漬けもん桶の古いのん，何にすんねん.

105 紙屑屋：棺桶の代わりに，使いまんねん．そう，そうですさかい，空いたらすぐにお返ししますさかい.

106 漬物屋：アホなこといいなはれ．そんなもんに使たあと返してもろてどないすんねん．第一な，ほかの人のやったらともかくな，あのらくだはんちゅう人には恩も義理もないねん．ああ．いやいやなるほどな，近所やさかい，よう買いもんには来てくれはった，ぎょうーさん買うてもろたで．あ，アーラ味噌くれの醤油くれの塩くれの，あ，そら随分と買うてもろたけどな，いっぺんも，銭もろたことない．はあ，そやさかいな，そんな人に，たとえつぶれてる桶の一つでも，そんなもん，あげるわけにいかんのや.

107 紙屑屋：あきまへんか．ほな，すんまへんけど，わたい，ゼニ出しますさかい，売っていただけまへんやろか．そやなかったらわたい，もっぺんお宅イ来んならんようなことができますので.

108 漬物屋：もっぺん来んならんて，何しに来んねん.

109 紙屑屋：らくだはん，せたろうてここへ来ましてね，その熊はんという人とわたいとが，ここで，死人のカンカン踊りをやらんならんことになりますので.

110 漬物屋：そんなこと，やったんか.

111 紙屑屋：へ，もう今，家主一軒，済ましてきたん.

112 漬物屋：そんなムチャな奴が来てんのか．いやいや，よっしゃよっしゃ．わかった，わかった．あのな，あの，その一番向こうにあるの，ちょっとあの，タガが傷んでるけど，うん，それやったらもう，タダであんたにあげるさかい．持って帰り，持って帰り.

113 紙屑屋：くれはりまっか．えらいすんまへん．ついでにここにある，あの，縄いただいてよろしいか.

114 漬物屋：ああ，縄なと，なんなと，持って帰ったらええわ．あったやろ，ああ，それもって帰り.

115 紙屑屋：へ，おおきにありがとうさんで．えらいすんまへんでした．なあ，しかしえらいもんやなあ．死人のカンカン踊りやちゅうたら，いっぺんに，あげるちゅいやがったで，なあ．そや．うちの米屋．死人のカンカン踊りやちゅうて一斗ほど放り込ましたろかしらん，て．へ，親方．桶，もろてきました.

116 熊五郎：あー，おおきにはばかりさん．いやいや，実はな．お前が漬けもんや行ってる間にな，あー，家主のうちから，酒も煮しめも届きよった．いやあ長屋の連中はな，先に香典持ってきよった．いや，実はな，家主のガキ，悪い酒持ってきやがったら突き返したろと思てな，今２，３杯ちょっとやってみたんや．あーなかなかええ酒，持ってきよった．な，えらい，嫌な用事さして済まなんだな．さ，一杯，いこか．

117 紙屑屋：あ，親方，ええ，もう，結構でおます．

118 熊五郎：ええやないかい．一杯飲め．

119 紙屑屋：いえ，もう私あの，これから商いに行かんなりまへん．ま，まだ朝から商い，してえしまへんので．商い行きますので，すんまへんがその，カゴとチギとこっちい，貸していただけまへんやろか．

120 熊五郎：おい，そんなこと言うなや．商いに行くのはわかったるわい．な，われに嫌な用事さしたさかい，商いに行くのやったら，この酒をばグーッと飲んで，身イ清めて行ったらどないや．な，一杯飲め．

121 紙屑屋：へ，もう，その，お言葉だけで結構でおます．ええ．もういただいたも同然でおますさかい．

122 熊五郎：ははあ．われ何か，酒は嫌いか．

123 紙屑屋：いえいえ，至って好きでおまんねん．

124 熊五郎：皮肉なガキな，このガキ．酒が好きやったら飲んだらどないや．

125 紙屑屋：いやいや，そらあ頂かんことはおまへんのやけどね．へえ，今も言うとおりこれから商いに行かんなりまへんね，ええ．商いが済んでからやったらね，またゆっくりいただきますさかい．ええ，あの，なんでしたら，帰りしなによしていただきますさかい．

126 熊五郎：おい．何かい．われはこれから商いにいて，帰ってくるまで俺がこないして待ってんならんのか．おい，そんなこと言わんと，飲んでいけ．な．お前どうしても飲まんと．飲みさらさんのんか．よーし，飲まな飲まんでええわい．飲むな？　俺もこうして一旦言い出したら，あとへは引けん性分や．飲むな．オノレが飲まんとぬかすんやったら，オノレの口引き裂いても，

127 紙屑屋：・・・・いやいただきま，いただきま，いただきまんが．あー，びっくりした．ええ，いただきま，いただきま．へえおおきにありがと．へえおおきにありがとさんで．へえ，へえ．おおきに．えらいすんまへんです．ほんなら，いただきます．へ，おおきにありがとさんで．へえ．

＜ク，ク，ク，ク，ク，ク，ク，クとお酒を飲む様子の描写＞

ああ．へえ，おおきにご馳走さんでおました．

128 熊五郎：おい．もう一杯行こ．

129 紙屑屋：いいええもうほんまに．これで結構でおま，これでスッと商いに行ってきますさかい．

130 熊五郎：まあええやないか．なあ．飯でも，一膳飯は食わんちゅうねんで，ええ．もう一杯飲み．なあ．もう一杯，飲め，ちゅうねん．人がおとなしい，

131 紙屑屋：いえいえ，いただきます，いただきます．へえ．へえおおきにありがと，へえ．へ，えらいすんまへんです．へえ．おおきにありがとさん．へえ．

＜ク，ク，ク，ク，ク，ク，ク，クとお酒を飲む様子の描写＞

へえ，おおきにごっつおはんでおました．

132 熊五郎：おい．お前だいぶにいける口らしいな．それだけ大きな湯呑みで一息にグーッと飲むっちゅうのやさかい，相当飲めるらしいな．それやったら，もっと味おうて飲んだらどないや．われみたいな飲み方したら水飲んでんのやら酒飲んでんのやわからへん．な，さ，もう一杯飲め．へえ，今度はゆっくり味おうて飲んだらどないや．え，飲め．飲めっちゅうて．おい．

133 紙屑屋：へえ，ほな，いただきま．へ．へえおおきにありがとう．へ，あっと．親方またこないぎょうさんついで，どないしまんねんな．酒八分目ちいますやんあんた．こんな大きな湯呑みに山盛りつがれたらほんま，手動かすこともできしまへん．いえいえ，口の方からお迎えに行きますけどね．ほーらまた，ぎょうさん，ついでいただいて．へ．

＜ク，ク，ク，とお酒を飲む様子の描写＞

えー．ハハハハハハ．いえいえ親方．わたいかてゆっくり味おうていただきとうおますがな．ええ．そやけど親方が怖い顔して，ぐっと睨みつけて，怒鳴りなはるやろ．いえ，怖いもんですさかいね，無我夢中できゃーっと一息に呑んだんで．へえ，いえ，こないしてゆっくり味わわしていただきました，へえ．へえ，ええお酒でおます．ヘッハハハハハハ．あのシブチンの家主がようこんなええ酒持ってきたもんやな，とおもて，へえ．やっぱしあの，なんでっせ，ええ，死人のカンカン踊りがだいぶに効いてますね．ハハハハハハ．さよかー，いいえ，いえ私ね，あの，お酒は至って好きでんね，へえ．もう至って好きでんねけどね，へえ．なんしあんたいつでも，商売の途中で酒飲んだら，うち帰ってかかに叱られまんねや．ハハハハさっぱりわやでやすわ．ええ，もういつでもね，お酒でしくじりまんね．へえ．

＜ク，ク，ク，とお酒を飲む様子の描写＞

値打ちのないもんね，酔うてるもんですさかいね，へえ．高―うゼニ出してね，買うて帰ってね，ええええ，いつでもうちでかかに叱られまんね．ヘヘヘヘヘヘ．いえいえほんまに，ええお酒でおますわ．ハハ．え，なんでおます．ええええ，いただきま．どうぞどうぞ，気い使わんといてくんな

はれ，勝手にいただきま．え，なんでおます．おてしょう，いえいえ，そんなもん要りしまへん．おてしょうてなもん，要りますかいな．いえ，ほんなら，えらい，あ，あ，厚かましおますけど，ええ，煮しめの方もいただきます．ええ，ほうらほら，ぎょうさん張り込んで，ええ，ぎょうさん炊いてきましたね．へえ，いえ，おてしょうてな要りしまへん，親からもろた万年でしょうちゅうのが，へえ，いえ，これが一番よろし．ええ，あとね．へえ，なかなかええ味付けしてますな．へえ．ハハハハハハ．えーー，よっぽど，家主は，死人のカンカン踊りが効いたと見えますね．ええ，お砂糖もようけ使うて，へえ．へへはー．なかなか，醤油も張り込んでますわ．へえ，へえ．

＜ク，ク，とお酒を飲む様子の描写＞

しかし親方，なんでんな．いえ，わたしこれお酒いただいたさかいちゅうて，ベンチャラ言うてる訳やおまへんけど，あんさん，なかなか偉いお方でおますな．いえいえ，ベンチャラやおまへん．あんさん偉いお方やとわたし先ほどから思うとりますねん．ええ．この，人の世話ちゅうのはね，ええ，なかなかできんもんでおます．へえ．いえいえ，あ，あるもん，あ，あるもんなら，そら人の世話，どんなことでもで，できますけどね，へえ，ないもんが人の世話するってなことは，なかなか，できるもんでは．ええそれをあんさんしなはる，えらい．ん．

＜ク，ク，とお酒を飲む様子の描写＞

しかし，悪いこっちゃおまへん．ええ，人の世話ちゅうのは悪いこっちゃおまへん．やっぱしね，へ，できる時には人の世話もしとかないけまへん．いえ，ほんまでっせ．ええ，いずれは我が身に報うてくるんだ．えーえ，そうですとも．へえ，ほらあんた．なんでおますか．いずれは，あんたらでも，まともな死にようのできる人やおまへんのや．な．いえいえ，やっぱし，する，時にしときなはれ．へえ，ほらもう，みんな我が身に報うてきますさかい，ハハ．

＜ク，ク，クとお酒を飲む様子の描写＞

あーーはははは．あー，ええ酒ですわ．ええ，あとあんた，なんし，かかと子供と，皆，朝，朝飯，いただくの，へえ．やあ我々ろくなもん食べて・・．朝，もうお粥でんね．へえ．へっへー．そうですさかいね，もうお粥なんか食べるしりからすぐにお腹減りま．いえ食べた時だけですわ，へえ．もうすぐにお腹減りまんね，へえ．もうぼちぼちお腹がへっとりました，へえ．そら空き腹へさしてこんなええ酒グーっと飲んだもんですさかい．へえ．もう，腹の中でお酒がだ――っと走り，走り回っとりまっさ．

ははははは．五臓六腑に沁み渡るっちゅうやつでんな．ええ，ははは．ほーらもう，ええ具合に回ってきました．ハ，ハ．

＜ク，ク，クとお酒を飲む様子の描写＞

親，親方，親方．どうです．お，親方の持ったはるその，湯呑みとこの，湯呑みと，ちょっと．いいえ，いえ，親方の湯呑み，私いただきます．ええ．ほでえらい失礼ですけど，私これ，親方に・・．いや，よろしてよろして．ちょっとその徳利こっち貸して・・．へえ，つがしてもらいますさかい．へ，親方，いっぺんつがしとくれやす，へえ．いえいえ，あの，結構でおま．へ，もう親方にいちいちついでもろてたら気ずつのうて，・・勝手に，つぎますさかい．ハハハハハハハ．ほんまにええ酒でおますわ．ええ．なんしねえ．へえ，もう近頃こんなええお酒，長いこと飲んだことない．へえ，いえ，私かてね，もともと紙屑屋やおまへんねん．へえ，いえいえ．たい，大した，大した店やおまへんけどね．道具屋してた．へえ，いえ，店のもん，まあ，4，5 人も使うて，へえ，道具屋してた．ハハア．いいえ，な，いえアホらしい，何をおっしゃいま．わたいら，偉そうに言うてても，あ，あきまへんわ．へえ．まあまあ店の方はどうにかこうにか，へえ，道具屋てな商売，へえ，いてたん．ところがあんた，私がこの，お酒を，お，お酒がや，やめられんもんですさかいね，へえ，とうとう，まあ店潰したん，酒で潰したような．いえいえ，そやおまへんねん．何も，酒だけやおまへんねん．へえ，結局あの，もともと，酒さえ入らなんだら，そやないねん．へえ．やっぱり酒飲むとついムチャしとなるもんで．へっへえ，さっぱりわやですわ．へえ．なんです．いえ，ご心配ない．へえ，大丈夫でおます．へえ，ま，まだ，酔うてやしまへん．へえ，大丈夫だ，へ，

＜ク，ク，クとお酒を飲む様子の描写＞

へーっへ．ああええ具合，ええ具合に回ってきました．いえ，私はね，もういつでも，悪い酒，いえいえ，決まってはね．ええ．商い済ましてうち，うち帰りまっしゃろ，いえ，さっきも言うた通り，店潰したん，さ，酒で潰してますさかいね．えー，そら．え？ああ，あ，うちの，かかでっか？いえ，これね，道具屋してた時分のかかと違いまんね．後添えでおまんね．ええええ，子供一人，置いて死なれてしもた．いえ，それも今言うた通り，店潰してしもて，へえ，それをあんたかかがえろう苦に病んでね，ええ，それが元で病気で死んでしもた．ははははは．わ，わ，悪い時には悪いことが重なりまっさ．へえ，へえ，まだその時分は店，潰すとこまではいってえしまへなんだ．へ，ぼちぼち，その，店が傾きかけた時に，かかが死にました．こっちゃー，子供残されて，や，ヤケクソになって，へえ，ま

すますそのう，酒は飲むわ，つい，しょうもない勝負事に手え出すわ，へえへえ．あんじょう，店潰した．へえ．悪い時には悪いことが重なるもんです，へえ，そんでまあそのうち，子供抱えて，あ，遊んでるわけにもいきまへんさかい，へえ，そんで，こんな商売やりかけたんでっけどね．へえ．

＜ク，ク，クとお酒を飲む様子の描写＞

親類や，皆がね，いーいつまでも独り身ではいかん．第一子供が可哀想やさかい．かかもらえ，言うて．へえ，皆がよってたかって今のかか，へえ．へへ，後添えもらうことになったんですわ．へえ，いえー，そんなんでね．いや，あの，なかなか，ようしてくれまんね．へえ，今のかか．ええ，そうでんね．へえ，へえ．しかしやっぱり，なんですなあ．子供，子供っちゅうのはようわかるんだ．まま母や，ちゅうことが．へえ，なさぬ仲っちゅうのは怖いもんでんな．へえ．わたいがこの，いや，そのかかが来るまではわたい，商いに行くのにね，うし，後ろから私についてきてたん．へえ，子供が．へっへー．ほな，まあさっきも言うた通り，親類が，商い行くのに子供連れて，ある，歩くてなみっともないことしなと，それやったらかかをもらえと．へえ，それで，かかもらいました．へ，それからずっと，うち置いたあるんでっけどね，へえ．わたいが商いに行くっちゅうたらあんた，おとっさん，わ，わ，ワシも一緒に行くちゅうてついて来よんだ，それ叱り倒してうち置いてくるんだ．へえ．わたいが商い出たら必ず，泣い，泣いとりまんね．ええええ，ようわかってまんね．へえ．ほであんた，商い済まして夕方うち帰りまっしゃろ，へえ．夕方うち帰ると，ろうじ口まで迎えに出てきよってね，おとっさーーん言うてね．へへへへへへ．さっぱりわやで．ま，そんなんでね．まあ，しかしあの，かかがあんじょうしてくれまっさかい，いや例えばでっせ，ちょっと，道で，芋でも買うて帰ってきますとな，ええ，うまい芋や，これ，あの，お前食いな，ちゅうて，へえ，へえ，やりまんね．ほなら，食やあよろしのにね，へ，ほな子供に，食べさします．さあ，そこが生さぬ仲ですわね．へえ，ほんまの子なら自分が食うて，食うてしまいますわ．へえ．やっぱし義理でんなあ．つい，こ，何もわたい，子供に食わそうと思って持って帰ったんやおまへんねん．へえ．かかに食わしたろとおもてね，持って帰ったんをまたそれをば子供にやりよんだ．へえ．

＜ク，ク，クとお酒を飲む様子の描写＞

えー，へへ．あーら，ええ具合，ええ具合に回ってきました．ハハハー．えーしかしほんまあんた偉い人や．あ，もう感心してね，もうちょっとあ

んたと早う心安なってたらなあ，ははあ，きょう，兄弟分になっといたら，ほんま，ほんまあんた好っきやー．ははは．

134 熊五郎：なあおい，紙屑屋．どないや．いっぺん商いにいてきて，ほんで，商い済ましてから，ゆっくり寄って，飲んだらどないや．

135 紙屑屋：なに？　あき，商いに行って帰りしなにもっぺん寄れて．何をぬかしてけつかる．わずか二升や三升，わざわざ，こんなとこまで帰って来れるか．何かしてけつかんね．心配すなや．何をぬかしとんね．俺がこれぐらいの酒で酔うと思ってんのんか．なあ，おい．いいええ，俺がやで，一日や二日，商い，休んでもやな，おい，言うて済まんけどな，かか，かかや子供に不自由かけるようなことは，俺はしてないんや，ちゃーんとあてがうもんはあてごうてあんねやさかい，な．心配すな．なんかしてけつかんね．あん．

＜ク，ク，クとお酒を飲む様子の描写＞

あのな，え，言うて済まんけどな．ワイらこないして出商売や．な．あ，雨が降ったと言やあ休み，風が吹いたと言や休まんならん商い，してんのにや，な，そのたんびにお前，かかや子供のもにや，なあ，おい．不自由な目は，さされへんねん．な．たとえ俺の口ひねってでも，かかや子供にはちゃーんと，く，く，食わしたんねん，お前．ゆ，ゆ，ゆうて済まんけどお前らみたいなハマイのない人間とおんなしようにすな．誰に言うてけつかんねん，カスや，しょうもない，ほんまに．

＜ク，ク，クとお酒を飲む様子の描写＞

おい，おい．人が酒飲んでんのに，うろうろさらすな，アホ．飲んでる酒がうもない．何？　カミソリ．カミソリ何さらすねん．

136 熊五郎：何さらすとは．ホトケ湯灌したらんならんやないか．こいつのドタマの毛をおろそと思うねん．

137 紙屑屋：なーにをぬかしてけつかんねん．ここのうちにカミソリてな気が利いたもんあったら俺がちゃんと買うてるわい，アホ．何ぬかしてけつかる．ほんなんあるかい．第一こんなやつのドタマ，ドタマの毛おろすのん，カミソリみたいなんいるか．心配すな，俺に任しとけ．俺がこの，このホトケのドタマの毛，俺は手でむ，むしったるさかい，心配すな．それ，そ，こっち，連れてこい．こっち，連れてこい，ちゅうねん．心配するな，アホ．

＜ク，ク，クとお酒を飲む様子の描写＞

あーよしよしよし．ドタマこっちい持ってこい．ようしよし．こんな，お前，ドタマの毛の一つや二つ，なんや．お前ら，心配せんでもええわい．お前ら，いちまの，いちま買うてきたら，いちまのドタマの毛，抜くのに慣れてんねんで．こんな，ドタマの，ドタマの一つや二つ，はえ．

＜ク，ク，クとお酒を飲む様子の描写＞

プーーーッ．ハハハ見てえ．こんなもん，お前，やっ，てえっ，と．お，どうじゃ．ハハ，なんでもないこっちゃ．やっ，いよっ．そーーら．よっとこしょっと．ハハハもうこれぐらいでええやろ．ほう，棺桶へ放り込んだ・・．そんなあったら目障りでどんならん．よーしよし，その桶へ放りこんだらええねん．だーっと，どっちからでもええ．バッと，放り込めや．ハハー．え？　足が，で，何？　足が，つっかい棒になって，入れずに．ボキッと折ったらええ．ボキッと．ははあ，入った，入ったわ．やあやあもう，蓋して．あ，おい．そ，そ，その畳の間からなんや，赤―い札が出てるやろ．ああ，そやろ．虫札やろ．えっ？カス坊主か．ようし，それ放り込んどいたれ．どっちみちこのガキら，坊主に参ってもらえるやっちゃないねん．よーし，そないしたら，縄かけとけ，縄．もう，せっかく飲んでんのに，バタバタすな．さあ，あるだけ飲んでしまお．

138 語り手：二人であるだけの酒飲んでしまいよって．まだ足らんというので，集めた香典でまた酒買うてきて，そいつも，スックリあげてしもて，二人ともグテグテに酔うてしまいよった．

139 紙屑屋：く，熊よ．俺はもうこうなったら帰らんで，ワイは．どや，おい．どっちみちお前，ソーレン明日出すつもりやろけど，もう，今晩，片付けてしまえ．な，人足雇うっちゅうたってゼニもないねやろ．われと俺とさし担いでこいつ，焼き場へ連れて行ったろやないか．

140 熊五郎：紙屑屋はん，えらいすまんな．

141 紙屑屋：何ぬかしてけつかんねん．んな，水臭いこと，ぬかすな，こうなったら兄弟同様やないか．よーし，われ，あの，先棒いけ，俺あとからついたるさかい．さ，表出え，表．ほら，行ってみい．なーあ，世間の奴は薄情なもんやで．えーっ．本来ならお前，今晩は夜伽やさかいっちゅうて来んならんはずやのに，皆，お前，表の戸しめて寝たふりさらしてけつかんねん．こないなったら長屋の奴らへ，当てつけや．えーっ．ひとつ長屋出んのん，景気よう出ようやないか．俺が大きな声出して，景気つけるさかい，われ，ついてこいよ．ええな．ソーーレンや，ソーレンや．ソーーレンや，ソーレンや．らくだの，ソーレンや．らくだの，ソーレンや．ソーーレンや，ソーレンや．

142 語り手：九之助橋筋をずーっと西へ降りてまいりまして，ちょうど，堺筋，これをば，南へ回りますと，砂糖屋さんがたーくさんに並んでございます．あ，ゆうけいのことですので，もう店しもて，表掃除しとおる丁稚．その前をば．

143 紙屑屋：ソーーレンや，ソーレンや．

144 砂糖屋の丁稚：常吉ったん．ちょと見てみなはれ．汚いソーレンが通ってまっせ．

145 紙屑屋：おい，お前，ちょと待て．ちょっとここの砂糖屋はんへ，ご挨拶によしてもらお．ごめんなはれや．

146 砂糖屋：どなたじゃな．そんなもん，持ち込んで．これ，そんなもん店先へ置いたらどもならん．

147 紙屑屋：今表掃除しとったん，われとこのス丁稚か．

148 砂糖屋：なんぞ，うちの子供しが粗相でもいたしましたかいな．

149 紙屑屋：今，ス丁稚が，汚いソーレンやとぬかした．ええ，汚いソーレンで悪かったな．汚いソーレンでいかなんだら，お宅できれいソーレンと代えてもらおか．

150 砂糖屋：こらどうも，あいすまんこって，子供のこっておますさかい，どうぞお許しを．これ，番頭，番頭，ちょっと，ちょっと．えらい，誠に些少でございますが，御仏前へ．

151 紙屑屋：ああ，そうか．いや，わかってくれりゃええね．いや，おおきに．邪魔した．またこれから，ちょいちょいよしてもらうさかい，よろしゅう頼んまっせ．ハハハハ．おい，熊．また，ちょっと飲めるぞ．ソーーレンや，ソーレンや．

152 語り手：日本橋の，ちょうど北詰まで参りまして，ひょろひょろっとして．ひょろひょろっとした拍子に，ばーーーんと，桶が，欄干に当たりよった．その拍子に，ざーっと，底が抜けた．らくだ，そこへ落としていきよって，

153 紙屑屋：ソーーレンや，お，おい，おい．ちょと，ちょと待て，おい．熊．なんや急に軽なったと思ったら，らくだ，いえへんで．

154 熊五郎：さっき，軽なったと思ったら，ほな，ひょっとしたら，あのガキ，お，落ちやがってんで．

155 紙屑屋：何をさらすねん．落ちたら落ちたとぬかしたらええのに．こんな人通りの多いとこや．おい，熊．早う早よ行かなんだら，もしも，人が拾ていったらいかんさかい，早う探しに行こう．

156 語り手：帰ってきますと，ちょうど日本橋の南詰に，願人坊主．こいつも，とろっぴき酔うて，大の字になって寝とる．

157 紙屑屋：ああ，こんなとこにいよった．こんのガキ，落ちんのやったら，落ちるとぬかしたらええのに．おーーい．手数かけやがって．友達に．いつ落ったんや．

158 願人坊主：八年前に．

159 紙屑屋：なーにを抜かしてけつかんねん．何が八年前じゃ．あ，こいつを放り込んで持っていこ．

160 語り手：焼き場までやってまいりますと．

161 紙屑屋：おーい．隠亡．ちょっとこれ，頼むで．

162 隠　亡：わかった，わかっとる．もう，遅うに来やがって．よしゃよしゃ．そこへ置いとけ，そこへ．ゼニわえ．

163 紙屑屋：ゼニはちゃんと持ってきてるわい．ワッハハ．お前も飲んでるな．

164 隠　亡：ぼちぼち，寝酒やって寝ようと思ってたとこや．

165 紙屑屋：そうか．ほなら，別にここへ，ちょっと，酒手置いとくさかい．まあ，ゆっくり飲んでくれ．

166 隠　亡：やあ，おおきにありがとう．やあ，おおきに，すまなんだ．いやあ，ちゃんと，焼いといたるさかい．ほんまに邪魔くさい．人が寝ようと思ってんのに．ど，しゃあない．先，仕事してしまお．

167 語り手：棺桶をば火の上へ載せまして，横手でちびーちび飲んでますと，ぼちぼち火が回ってきよったと見えて．

168 願人坊主：あつ，熱い，熱い．

169 隠　亡：何をぬかしてけつかんねん．熱のうてか，ようそんなことぬかすで．第一，往生際の悪いやっちゃ．おとなしい，死にさらせ．

170 願人坊主：熱い！

171 隠　亡：まだぬかしてるな．

172 願人坊主：いったい，ここはどこや．

173 隠　亡：よう，そんなこと，ぬかすで．ここは千日の火屋じゃ．

174 願人坊主：ヒヤでもええさかい，もう一杯くれ．

六代目三遊亭圓生「らくだ」文字起こし（ＣＤ音声 56 分 49 秒）

＜凡例＞

＜＞：酒を飲む様子や戸を叩く音など，発話そのものではない部分

001 語り手：えー「らくだ」という，お噺でございますが．えー文化の三年に，ラクダというものが日本へ初めて，見世物として参りました．えー人間で，この，なりが大きくて，のそのそして，役に立たない者を，らくだのような奴だなんという悪口を言いましたもので．えー，この話の主人公というのは，馬太郎という，本名でございまして，えーところがこれが「らくだ」というあだ名がつきまして，「らくだの馬さん」という．中にはまた，ただ「らくだ」という人がありまして，えー，当人も決してそれをまた嫌がらない，「おお，らくだ」「おお」なんてんで，返事をしようという，あまりどうもいい人物ではございませんが．えー「目の寄るところには玉」と言いまして，こういうところへはまたおんなしような奴が寄ってくるもんで．

002 兄貴分（熊五郎，以下「熊」）：おう，らくだ．おうい，いねえのか．うん，返事がせん，寝込みやがったのか．おい，なんだ，あいてるじゃねえか．なんだい，チェッ，寝てやがら．のんきな野郎じゃねえか，冗談じゃねえ，いま時分まで寝ているべらぼうもねえもんじゃねえか．おーおい，起きろ，起きろ．おい，でえいち，そんなとこへおめえ，うたた寝していた日にゃ，風邪引くじゃねえか．おい，起きねえかい．おい．おっおっ．なんだ，冷たくなってる．ああ，そうか．そう言やあ，この野郎，ゆうべフグをぶら下げてやがった．鍋がかかってら，やられやがったな．「時候ちげえで，そんなのものは危ねえから，おめえよした方がいいだろう」ったら，「冗談言っちゃいけねえ，こう安くっちゃ，食わずにはいられねえ．フグなんてものはあたるもんじゃね，俺の方であててやらあ」なんて笑っていやがった．こんな野郎でもやっぱり毒にはかなわねえんだな．とうとうクタバッっちまいやがった．ちぇっ，間抜けな時に来やがったな，こんチキショウ．先月あたりならなんとかなったんだがな．こっちはスッテンテンに取られちまって，今じゃどうにもしょうがねえ．普段から，兄貴，兄貴って．兄貴と言われりゃ，兄貴らしいこともしてやりてえけれども，銭がなきゃしようがねえじゃねえかな，どうも．

003 屑　屋：くずーーーい，クズのおたまりはございませんか．くずーーーい．

004　熊　：おっ，おあつらいじゃねえか，えー，屑屋がやってきやがる．こいつはありがてえ．おうっ，屑屋．

005 屑　屋：へえ．悪いところで声をかけちゃったな，こら．らくださんのうちだ．このうちで呼ばれた時はろくなことがねえんだからな．なんでもないものを無闇に買え買え，買え買えってやんだ．ここで呼び込まれるようなこっちゃ，今日はろくなことはねえや，こりゃ．

006　熊　：何をぐずぐず言ってやがる．へえれ，こっち．

007 屑　屋：へえ．こんちわ．えーこちらはらくださんのオタクじゃないんですか．

008　熊　：らくだんとこだよ．

009 屑　屋：どっかへお出かけになりまして？

010　熊　：らくだが？

011 屑　屋：へえ．

012　熊　：どこにも行きやしねえ．ここにいる，ええここにいるよ．

013 屑　屋：ああ，ハッ，よく寝てらっしゃいます．

014　熊　：ふん，ちげえねえ，よく寝てらあ，もう生涯起きやしねえ．

015 屑　屋：へえ，どうしたんで？

016　熊　：くたばってるんだい．

017 屑　屋：えっ，らくださんが，死んだんですか．へーえ，それはどうもいい塩梅．そうでございますか．だけども，亡くなる方じゃないんですがな．どうしたんです．

018　熊　：この野郎，ゆうべフグをぶら下げてやがったんだい．俺がよせと言ったんだけど，聞かねえで食らったんで，野郎，とうとうフグでやられやがったんだ．

019 屑　屋：そうですかねえ．あんな方でもやっぱり毒にはかなわないんですかね．

020　熊　：何しろ，俺が今，この家飛び込んできたら，こんちきしょうが死んでやがる．普段から俺のことを兄貴，兄貴て言いやがる．そのくせ，こんちきしょうの方が二つ三つ歳は上なんだ．兄貴と言われりゃ，こっちも兄らしいことをしてやりてえが，何しろ，俺も博打で取られてスッテンテンで，どうにもしょうがねえんだ．どうしようかと思っているところへ，おめえが通り合わせたんで，ちょうど幸いだ．この家のものはなんだ，なんでもおめえに売るから，目いっぺえ買っていってくれ．なっ，そのゼニでともれえを出そうてんだ．頼むわ．

021 屑　屋：えー，せっかくですけども，何にもいただくものはないんで．

022　熊　：なんでも．

023 屑　屋：なんでもったって，何にもないんですから．

024　熊　：火鉢があるじゃねえか．

025 屑　屋：火鉢はダメなんで．二つに割れてるんで．はちまきをしてようやくもってるんで．急須は口が欠けておりますし，一年ばかり前にお断りしたものばか

りなんです．

026　熊　：ふん，屑屋に見放されてやがる．だらしがねえや，冗談じゃねえ．だけどもよ，何か買ってってくれよ．えー何か．

027 屑　屋：何かったって，何にもいただくものはないんでございますが．しかしまあ，えーらくださんもお亡くなりになってみると，まことにお気の毒でございます．えーこれは，まことにほんの少々，心ばかりでございますが，どうかこれでお線香でも．

028　熊　：そんなこと，おめえ．

029 屑　屋：いえいえ，決してもうそう言うほどのもんじゃないんでございますが．私の本当の心ばかり．こんなしがない稼業でございますから，どうか．

030　熊　：そりゃすまねえなあ．おめえにそんなしんぺえかけちゃ申し訳がねえ．しかし，ま，せっかくそうしてくれたものを，仏に成り代わって，俺あもらっておくわ．ありがとう．

031 屑　屋：えー決してもうそれほどのもんじゃないんで．じゃ，これでおいと

032　熊　：おー，おお，おお，まあまあ待ちねえ．俺はこの長屋へ初めて来て勝手が分からねえんで，おめえは何か，ちょいちょい来てんのか．

033 屑　屋：へえ，えーあたくしはもう長年出入りをしておりますんで．

034　熊　：じゃ，てえげえのことはわかるだろう．

035 屑　屋：へえ，なんで．

036　熊　：今月の月番はどこだ．

037 屑　屋：あー今月の月番はあのなんでございます，この先，えー下駄の歯入れ屋さんでございますが．

038　熊　：じゃ，そこへ行ってな．らくだの死んだことを言って，いま兄貴分てえのがきて，とむらいを出してやろうと思うが，なにしろ博打に取られてゼニが百もねえ．どんな長屋でも付き合いてえものがあるだろうから，急いで香典を集めて持ってきてくれるように，それもなまじこの品物やなんかでよこされちゃ迷惑だから生の方がいいと，こう言ってな．

039 屑　屋：つまり香典の催促なんで．

040　熊　：うん，いいじゃねえか，手前のことを言うんじゃねえ．ひとのことならなんでも言えるじゃねえか．え，じゃ，行ってこい．おおい，待ちねえ，そのザルをこっちに出しな．

041 屑　屋：へ，いえ，これは始終しょっておりますから，軽いんで．

042　熊　：まあいいから，こっちに出せてんで．俺が預かっといてやるから，そんなもの持っていかなくたって．その風呂敷があるだろう，肩にかけてる，それも出しねえ，預かっておくから，は，早く行ってこい．

043 屑　屋：へえ．ああどうも，つまらねえ用を言いつけられちゃったな，冗談じゃねえ．

えー，こんちわ.

044 月　番：はい，おお，屑屋さんじゃねえか，なんだい.

045 屑　屋：あの，お知らせがあって来たんですが．いえ，あの，長屋のらくださんがゆうべ死んだんで.

046 月　番：えっ，誰が．らくだが死んだ．へーえ，それはまあよかったね．死んだかい，あいつが．だって，死ぬ野郎じゃねえんだが，どうして.

047 屑　屋：なんでもフグでやられたらしいんで.

048 月　番：怖いもんだね，そうかい．まあ，それはなんにしてもよかったね．んー，で，わざわざ知らしに来てくれたの，ああそう，ご苦労さん.

049 屑　屋：いま兄貴分てえ人が来ているんで，らくださんのおとむらいを出してやりたいが，博打に取られて，その方も一文なしでどうにもしょうがない．えー，どこの長屋でも付き合いてえものがあるだろうから，香典をすぐ集めて持ってきてくれるように，それも品物や何かでなまじよこされちゃ困るから，生の方がいいと，こう言うんで.

050 月　番：なにかい，その兄弟分が．冗談言っちゃいけないよ．そりゃあね，こんな長屋だってね，そりゃ付き合いはあるよ．あるがね，あのらくだてえやつがね，いっぺんだって月掛けなんぞかけたことはねえんだから．あー初め取りに行くてえと，「今こまけえのがねえ」とこう言いやがる．で，しょうがねえから，月番が立て替えちゃって，また催促に行くと，「今こまけえのがねえ」．「今度は大きいのでよろしゅうございます」ったら，「こまけえのがねえぐらいだから，大きいのはなおねえ」．その上催促をすりゃ，張り倒される．しょうがねえから，月番が，おー，損をしちまったんだ．なにがあったって，ビタ一文出すんじゃねえんだからね，あー，あんな野郎が死んだって香典なんぞはよこすものはない．ダメだよ.

051 屑　屋：ええ，それはもっともなんですが，これはまあ余計なことでございますけども，まあたとえいくらでもおやりになったほうが良くはないかと思うんですが.

052 月　番：どうして.

053 屑　屋：その兄貴分てえ人が，らくださんへ輪をかけたような，もっとこうなりの大きな，怖い顔をしてましてな．へえこれをやらないと，犬の糞でカタキでまたなにをするかわかりませんから.

054 月　番：どうせあんな奴のきょうでえ分てえんだ，ろくなもんじゃねえや．ああ，まあまあいいや，いいや．じゃ，な，俺が長屋を回って，らくだが死んだと言えば，また喜んでこわ飯でもふかすところがあるだろうから，そのこわ飯をふかした代わりだと思って，いくらかやってくれと，こう言って，あー．じゃ，そう言っといてくんない．あのー，こんな貧乏長屋ですから，

たいしたことはできませんからと，こう言ってな，釘を刺しておいてくんな.

055 屑　屋：へえ，宜しいです．どうぞお願い申します．へ，行ってまいりました.

056　熊　：おお，ご苦労さん．どうしたい.

057 屑　屋：えー，いますぐに集めて持って上がるそうで，こういう貧乏長屋でございますから，えーたいしたことはできないから，それはご承知を願いたいという

058　熊　：まあ仕方がねえやな．こっちだってただもらうんだ，多い少ねえは言えねえ．えー，じゃな，あのー，もう一軒，行ってこい.

059 屑　屋：すみませんが，私もまだ今日はまるっきり，朝っから商売をしてないんでございますが．えーすみませんが，そのザル.

060　熊　：だから，もう一軒行ってこいってんだい.

061 屑　屋：どこへ行くんです.

062　熊　：家主はどこだ.

063 屑　屋：ああ，大家さんとこなら，あの，この路地の出口で，そっから行きゃ近いんで.

064　熊　：じゃ，家主のとこに行ってな.

065 屑　屋：あっ，らくだの死んだことを．へえ，よろしゅうございます.

066　熊　：おお，おいおい，ただ行ったってしょうがねえやな．ひとの言うことをよく聞いて行けてえんだよ．えー向こうへ行ったら，らくだが死にました．えーきょうでえ分てえのが今きているが，とむらいを出してやりてえと思うが，博打に取られちまって，ゼニが百もねえ．どうすることもできねえ．しかし，犬猫の死んだんじゃねえから，このまんまにしておくわけにはいかねえ．せめて通夜の真似事ぐれえはしてやりてえが，えー大家さんはお忙しいでしょうから，おいでには及びません．と先に断っておきな．いいかい．長屋の方はお見えになるでしょうが，カラっ茶でけえすてわけにもいかねえから，酒を三升ばかり届けてくれ．悪いのはいけねえから，なるべくいい酒を吟味して持ってくるように．でー，煮しめは，そうだな，まあはんぺんと，こんにゃくと，ハスぐれえだ．こういう陽気だから，塩を少し辛めに，出汁をきかして煮てくれ．大きい丼か皿に，にへえもありゃよかろう．別におまんま三升ばかり炊いて，急いで届けるようにな，そう言ってくれ.

067 屑　屋：それはダメだ.

068　熊　：お前がダメだっていいや.

069 屑　屋：そんなこと言ったって，向こうでくれやしません.

070　熊　：くれやしませんて，おめえがなにも決めることは

071 屑　屋：いや，決めるわけではないんですが，そんなこと言ったって，この大家さんてえのは，この界隈，名代のしみったれな人なんです．

072　熊　：そんなにしみったれなのかい．

073 屑　屋：ええーっ，とてもそれはくれっこありません．

074　熊　：もしな，向こうでよこすのよこさねえのとぬかしやがったら，そう言ってやれ．えー，それじゃ，とむらいも出せませんし，身じゃなし皮じゃなし，そうそう世話は焼ききれねえから，らくだの死骸はこちらへしょってまいります．大家といえば親も同然，店子といえば子も同様てえ例えがあるから，どうか煮て食うとも焼いて食うとも好きなようにしてくれ．どうせ持ってくるついでだから，お慰みを重ねて，死人にカンカンのうを踊らせてご覧にいれますからと，こう言って．早く行ってこい．

075 屑　屋：へえ．そんな無理なこと言ったってしょうがありゃしねえ．そんなこと言っていきゃ，大家さんのとこ，しくじっちまう．冗談じゃねえ．ええ，こんちわ．ごめんくださいまし．

076 大　家：はい，どなた．

077 屑　屋：ええ，ごめんくださいまし．

078 大　家：はい．なんだ，屑屋じゃねえか．なんだ，いくらおめえしょうべえ熱心だったって，おととい持ってったばかりじゃねえか．そんなにクズなんてものはすぐにたまりはしねえ．

079 屑　屋：いえ，今日は商売で上がったんじゃないんで．

080 大　家：なんだ．

081 屑　屋：ええ，お知らせがあるんですが．長屋のらくださんがゆうべ死にましたんで．

082 大　家：えっ，誰が．らくだが死んだ．えっ，おい，おばあさん，らくだが死んだとよ．えっ，ゆうべ，死んだ．はははははは，死にゃがったと，あの野郎がよ．そうだよ，おう．だけど，ま死ぬ奴じゃねえけれども，どうして死んだんだい．えっ，フグで．おばあさん，フグだとよ．あー．あんな野郎でも，やっぱり毒にはかなわねえと見えるんだな．そうかい，死んだかい．いやあ，な，なんにしても，それはめでてえこったぜ．

083 屑　屋：えーっ，めでたいことなんで

084 大　家：で，何かい，わざわざ知らしにきてくれた，ああそうかい，それはご苦労．

085 屑　屋：それから，今そのらくださんの兄貴分てえ方が来ておりまして，らくださんのおとむらいを出してやりたいと申します．

086 大　家：うーんうん，そうかい．まあ，あんなやつでもそうして世話をしてくださろうてえ方があるのは幸せだ．じゃまあ，らくだもああいうやつで，さぞ大家さんの方へご迷惑もかけておりましょうし，店賃のたまったのは調べていただいて，そいつを払いたいと，こう言うのかい．

087 屑　屋：そうじゃねんです.

088 大　家：なんだい.

089 屑　屋：その方も博打に取られちまって，一文無しで，どうにもしょうがない．しかし，犬猫の死んだんじゃないから，せめて通夜の真似事ぐらいはしてやりたいと言うんです.

090 大　家：どうでも勝手にするがいいよ.

091 屑　屋：大家さんはお忙しいでございましょうから，おいでには及ばないと申します.

092 大　家：誰が行くや，つまらん．そんなことはご念には及ばねえって，そう言ってやんな．ああ，行かねえ.

093 屑　屋：長屋の方はお見えになるでございましょうから，カラッ茶で帰すというわけにいかないから，酒を三升ばかり，悪いのはいけないから，なるべくいい酒を届けていただきたいって，それからまあはんぺんと，ハスと，こんにゃくぐらい，それを少しこういう陽気だから，出汁をきかして，塩を辛めに煮て，大きな丼か皿に二杯もありゃいいから，あとおまんまを三升ばかり別に炊いて届けてくれと，こういうなんでございます．じゃ，どうぞよろしくお願いを.

094 大　家：おい，おいおいおい．まあ待ちな，屑屋．おばあさん，お茶をいれな.

095 屑　屋：いえ，えー，どうぞもうお構いなく.

096 大　家：俺が飲むんだ．おい，屑屋，おめえなにか，幾つになる．えっ，なんだって，そんな馬鹿げたことを頼まれてつけえに来るんだい．おめえだって長年この長屋に出入りをしているんだから，らくだてえやつがどんなやつか，まんざら知らねえことはねえだろう．どんな悪いやつでも，越してきたその月の家賃は，一つは払うもんだ．あの野郎ときた日には，越してきたその月から払わねえ．催促に行きゃ，「今ねえ」とこう言いやがる．えっ，じゃ，「店賃が払えなきゃ出て行け」ってえと，「出てやるから，俺のへえる家を新しく一軒建てろ」と，こう言いやがる．どうにも始末におえねえ．死んだって，おめえ，三年いく月か居た家賃が一文も取れるわけじゃねえ．それを棒を引いてやるだけだって，生やさしい金じゃねえ．その上になんだ．酒もってこいの，煮しめよこせだの．あんまりとぼけたことを言うなって，その兄貴分てえのによくそう言ってやんな.

097 屑　屋：それはもうごもっともな．いえ，ですから，私もそう言ったんです．そんなことを言ったって，とてもくださるわけはない．それでなくても，もう名代のしみったれ

098 大　家：なに.

099 屑　屋：いえ，あの，名代の，しみ，しみじみ，しみじみ，いい大家さんだけども，えー，それはとても下さるわけがないって，そう言ったんです.

100 大　家：そう言ったらどうした.
101 屑　屋：そしたら，もしそれでよこすのよこさねえのとぬかしやがったら
102 大　家：なんだ，家主に向かって，なんだ，ぬかしやがると
103 屑　屋：いいえ，そ，そ，そうじゃないんです．そのなんです．もしよこすのよこさないのと，よこすのよこさないのとおっしゃって，おっしゃいましたら，おっしゃいましたらねって，その，それじゃ身じゃなし皮じゃなし，そうそう世話は焼ききれないから，大家といえば親も同然，店子といえば子も同様てえ例えがあるから，死骸はこっちへ持ってくるから，煮て食うとも焼いて食うともいいようにしてもらいたい，どうせ連れてくるついでだから，お慰みを重ねて死人にカンカンのうを踊らしてお目にかけると，こう言うんです.
104 大　家：なんだと，死人にカンカンのうを踊らせる？　踊らしたらいいじゃねえ．そんなことで驚くような家主とはわけが違う．俺もこの界隈じゃ，少しは嫌がられてる人間だ．そう言ってやんな，そのきょうでえ分に．ああ，年はとりてえもんだ．まだカンカンのうを死人が踊ったてえのは見たことがねえ．俺も婆さんも退屈をしているから，ぜひ，そのカンカンのう踊りが見てえから，連れてきて見せろって，家にけえってそう言え.
105 屑　屋：あっち行っちゃ脅かされ，こっち行っちゃ脅かされて，鉄砲ザル向こうに取られちゃったから，逃げることができやしねえんで，しょうがねえんだ．えっ，行ってまいりました.
106　熊　：おいおい，なにをしてるんだ．冗談じゃない．つけえを早くしろ.
107 屑　屋：あなた，家にいてそのポンポン言ってらっしゃいますけれども，使いに行ったもんの身にもなってくださいよ.
108　熊　：どうしたんだ，いってえ.
109 屑　屋：ダメなんで，ダメなんで.
110　熊　：なんだ，ダメだって.
111 屑　屋：向こうでくれないってんで.
112　熊　：どうしてくれねえてんだ.
113 屑　屋：どうしてったって，それあ，らくださんも悪いんで，ここへ越してきて 3 年以上になるのに，まだ家賃をひとつも払ったことはないんで．死んだってこの家賃は一文ももらえるわけじゃないと，こう言うんです.
114　熊　：そんなこと当たりめえじゃねえか.
115 屑　屋：へえ.
116　熊　：死んだやつが払えねえのは当たりめえだ.
117 屑　屋：へえ，そう，そうなんで，当たり前なんで，へえ．で，それを棒を引くだけでも安い金じゃないから，とてもやれないからダメだと，こう言うんです.

118　熊　：それで，黙ってけえってきたのか.
119 屑　屋：だって，向こうでくれないってんですから，しようがありません.
120　熊　：死人を連れてきて，カンカンのうを踊らせるって言わねえのかい.
121 屑　屋：いえ，それはそう言ったんですけど，向こうで驚かないんで．歳はとりてえもんだって，こう言うんです．死人がカンカンのうを踊ったのは，この歳になるが見たことはない，俺も婆さんも退屈をしているとこだから，ぜひその踊りが見てえから，連れてきて見せろと．そんな怖がらないんですから，ダメなんです.
122　熊　：じゃなにか，その踊りが見てえって，そう言ったのか.
123 屑　屋：へえ.
124　熊　：確かにそう言ったのか.
125 屑　屋：ええ，ええ，それはもう確かにそう言ったんです.
126　熊　：向こう向け．向こう向きな.
127 屑　屋：えっ，何かついてるんで.
128　熊　：なんでもいいから，そっち向いてろてんで，こっちを向くな．張り倒すぞ．さっ，これをしょうんだ.
129 屑　屋：へっ，あっ，あちち，勘弁してくださいよ，あなた．嫌だな．おっ，血い吐いてるよ，うふふふ．冷てえな，食いつきゃしませんか.
130　熊　：死んだもんが食いつくか．さっさと歩け，さっさと．どこだ，この家かい．えっ．へっついのとこへ立てかけろ．へっついのとこへ立てかけるんだよ．突っ張ってるからでえじょうぶだから，立てかけとけってんだよ．その障子をガラッと開けてな，それをきっかけにカンカンのうをすぐに歌え.
131 屑　屋：冗談言っちゃいけません．そんなもの私は歌えやしませんよ.
132　熊　：歌えねえことはねえ.
133 屑　屋：歌えねえことはねえったって，知りません.
134　熊　：この野郎，歌わねえと，蹴っ殺すぞ.
135 屑　屋：うっふふふう，じゃ，しょうがねえ歌います.
136　熊　：ばかやろう，歌うんだ.
137 屑　屋：カンカンのう，きゅうのです.
138 大　家：おい，婆さん，本当に来たよ．なんだね，おい，お前，逃げちゃいけないよ．不人情な．逃げるんなら，俺も一緒に逃げるよ．待ちない.
139 屑　屋：カンカン
140 大　家：屑屋歌うなよ，もういい，わかった．いや，やるやる，やるやる，やります，やります．すぐ持っていきますから，どうぞ，どうぞお引き取りを願います.
141　熊　：すぐに持ってこねえと，また，もういっぺん踊らせるぞ.

142 大　家：いえー，すぐにお届けを，お届けをいたしますから．どうぞそちらにお引き取りを．
143　熊　：じゃ，いいんだな．おっ，そっちを向け．さっ，これをしょうんだ．
144 屑　屋：へえへえ．
145　熊　：そこへ放り出しとけ．もう一軒，行ってこい．
146 屑　屋：もう勘弁してくださいよ．もう私は朝からまるっきり商売をしてないんですから．1 日休むと，六十三になるおふくろに，十一をかしらに３人子供があって，あした釜の蓋があかないんでございますから．
147　熊　：わかっているよ．もう一軒行ってこいってんだ．
148 屑　屋：どこへ行くんです．
149　熊　：表の八百屋があんだろう．
150 屑　屋：へっ．
151　熊　：あそこへ行ってな，あのー，四斗樽の空いたのを一本もらってこい．
152 屑　屋：どうするんで．
153　熊　：どうするんじゃねえ，らくだの死骸を入れるんだ．
154 屑　屋：そんな，向こうは商売もんだから，くれやしませんよ．
155　熊　：くれねえことはねえや．
156 屑　屋：くれねえことはねえったって，くれませんよ．
157　熊　：で，もしな，向こうでよこさねえと言ったらな．
158 屑　屋：死人を連れてきてカンカンのうを踊らせる
159　熊　：そうじゃねえんだよ．空いたらお返しをいたしますからとこう言って，行ってこい，早く．
160 屑　屋：無理なことばかり言ってるんだからな，どうも．へい，こんちわ．
161 八百屋：おっ，よう，なんだい，屑屋さんじゃねえかい，どうしたい．顔色が悪いじゃねえかい，おめえ．どうしたい．
162 屑　屋：えー，お知らせがあって伺ったんですが．長屋のらくださんが昨夜死んだんでございます．
163 八百屋：誰が．死んだ，らくだが．本当かい，お前．そんな人を喜ばせようと思って，そんなことを言ってきたんじゃねえのかい．死ぬ野郎じゃねえんだからな，あいつは．本当に死んだの．だけども，よくなんだよ，頭を潰しておかねえと，後で生き返るよ，あいつは．
164 屑　屋：蛇だな，まるで．ゆうべフグで亡くなったんで．
165 八百屋：へえーっ，そうかい．フグてえのはえらいもんだね，あんな奴を殺せんだね．大したもんだな，どうも．で，なにかい，わざわざ知らせに来て．ああ，ああ，それはどうもありがとう．ああ，ちっとも知らなかったな．お前なにかい，らくだの親戚かい．

166 屑　屋：いやいややー，とんでもない，親戚じゃないよ．今，その兄弟分てえ方が来ているんです．
167 八百屋：うん．
168 屑　屋：そのかたも，いま博打に取られて一文なしでどうにもしょうがないんで，すみませんが，四斗樽の空いたのを一本いただきたいと，こう言うんです．
169 八百屋：なににする．
170 屑　屋：らくださんの死骸を入れるんです．
171 八百屋：チェッ，冗談言っちゃいけねえ，ダメだダメだ，うちは商売もんだからやれないよ．
172 屑　屋：もし，いただけなかったら，貸していただいてもよろしいんです．
173 八百屋：貸してどうする．
174 屑　屋：空いたら，お返しをいたします．
175 八百屋：冗談言っちゃいけないよ．そんなバカなこと言ったってダメだよ，やれない，やれない．あのね，らくだてえやつは，今までうちの品物だって，どのくれえタダで持ってってるか知らねえんだ．ツラが憎いんだ．店へ立ちやがって，ひょいとつまんで，「おお，これはいいよ」って，すーっと行っちまいやがる．後を追っかけてって，「おあしを」ってえと，ポカっと殴りやがる．どうにもしようがねえんだよ．あんな野郎が死んだって，なんのなんの．ダメだダメだ，やれない．
176 屑　屋：じゃ，どうしてもいただけ
177 八百屋：ああ，ダメだよ．
178 屑　屋：いよいよくださらないとなると，カンカンのうなんで．
179 八百屋：なんだい，カンカンのうってえのは．
180 屑　屋：死骸のやり場に困るから，こちらへ連れてきてカンカンのうを踊らしてお目にかけると，こう言うんで．
181 八百屋：へえー，ふふん，おもしろいね，見たいね．
182 屑　屋：見るんですか．
183 八百屋：見るんですかったって，見てえじゃねえか，お前．死人がカンカンのうを踊るなんてえのは乙なもんだね．おおっ，ぜひ見せてもらおう．
184 屑　屋：じゃ，どうしても見ますか．
185 八百屋：おう．
186 屑　屋：こうお座敷が増えちゃやりきれねえ．
187 八百屋：なんだい，お座敷てえのは．
188 屑　屋：いま，踊らして帰ってきたばかしなんで．
189 八百屋：おいおい，冗談じゃない，本当にやったのかい，どこで．大家さんとこで．どうしたい．

190 屑　屋：大家さん，真っ青になっちゃった．へえ，それで酒と煮しめをくれるてえことになったんで．こちらでもし樽がいただけなければ，本当に

191 八百屋：おお，いいよいいよ，やるよやるよ，やるよやるよ．本当に持ってこられてたまるかい，冗談じゃねえ．じゃね，新しいのはいけないから，あのう，物置の前に 3 本ばかり出ている，あれならどれでもいいから，持っていきな．少しガタついてるからね，えー，水を張っときゃ，そのガタつきはじきに止まるから．

192 屑　屋：それから，すみませんがあの，縄を少しいただきたい

193 八百屋：あーあー，じゃ，物置にへえっているから，いいだけ持っていきな．

194 屑　屋：天秤の悪いのを，拝借をした後でお返しをいたしますから．

195 八百屋：じゃ，そこにあるのは，それは悪いから持っていきな．ああ，いいよ，返さなくてもいいから，持っていきな．

196 屑　屋：そうですか，どうもありがとう存じまして．へ，行ってまいりました．

197　熊　：おおっ，ご苦労，ご苦労．どうしたい．

198 屑　屋：はじめなかなかくれるって言いませんで，しょうがありませんから，カンカンのうをちょいと用いましたところが，向こうでも驚いて，やるってえまして，少し古いからガタつきますが，水を張ってありますから，じきにあのガタつきは止まります．それから縄もいるだろうと思いまして，天秤の悪いのも一本ついでにもらってまいりました．

199　熊　：そうか，さすがに江戸っ子だ．なあ，することが，どうもなかなか気が利いてる．おめえが行った後でな，なんだ月番のジジイてえのがやってきやがった．背の低いちっぽけなジジイだ．ぺこぺこお辞儀ばかりしてやがってな．うふん，「こんな貧乏長屋でございまして，ろくなことはできません，誠にどうも申し訳がございません」なんて言いやがる．そりゃ仕方がねえやな．こっちだってタダもらうんだから，多いすくねえは言えねえから．そこへ入れちげえに，なんだな．けえると家主のババアがやってきやがって，「先ほどはどうもとんだ失礼をいたしまして，お口にも合いますまいが，召し上がっていただきとうございます」って言いやがってな，酒と煮しめを持ってきやがった．それから，どんな酒だか，もし悪かったら，たたきけえしてやろうと思って，ババアを待たしておいて，俺は飲んでたんだよ．そばでガタガタふるえてやがんだよ．やってみたところが，まあ割合にやれるから，もらっといたんだ．おまんまは三升届いているし，早桶はできる．これでまあ，おめえのおかげですっかりとむらいの支度はできた．

200 屑　屋：えー，じゃ，もう御用はございま

201　熊　：ああ，これでもういいよ．

202 屑　屋：えー，それでは私もこれからすぐ商売にまいりますから，その，ザルを
203　熊　：まあまあ，まあ待ちねえ．えーおまえもなんだ，えー，酒があるんだ，いっぺえ飲んでったらいいじゃねえか．えーいっぺえやんな．
204 屑　屋：いえいえ，もう私は結構でございますから．
205　熊　：だって，おめえ何か，酒は飲めねえのかい．
206 屑　屋：いえ．
207　熊　：きれえなのかい．
208 屑　屋：嫌いじゃないんですけども，えー，これから商売
209　熊　：だからいいじゃねえか，いっぺえ飲んでいきねえ．俺だって，おめえを使いっぱなしで，このまんまけえすのはなんだから，なあ心持ちが悪いじゃねえか．仏をしょったりなんかしているんだから，ここでキューッとやって，体を清めて，それで商売に行きねえ．そうしな，いっぺえやんな．
210 屑　屋：もうほんとうにもう頂かなくて結構なんですが
211　熊　：いっぺえだけ飲みなてんだよ．飲めねえことはねえだろ，いっぺえ．飲めねえのか．おい，じゃ，なにか．おい．
212 屑　屋：じゃ，じゃ，いただき，いただき，いただきます．こんな，こんな
213　熊　：いいから，ついでやるから持て．
214 屑　屋：こんな大きなもんで．へへーっ，あのー，そんな．じゃ，頂戴をいたします．＜飲む＞なかなかいい，＜飲む＞どうもごちそうさんで．じゃ，そのザルをいただいて．
215　熊　：なーんで．おめえ，なんでえ，キューッといくとこ，案外やれるじゃねえか．酒はなんだろ，きれえじゃねんだろ．
216 屑　屋：本当は好きなんです．
217　熊　：好きなら飲んだらいいじゃねえか．
218 屑　屋：いえいえ，好きなんですけれども．
219　熊　：好きなんですけれどもじゃ，もういっぺえやんねえ．もういっぺえ．いいじゃねえか．
220 屑　屋：いえ，もうほんとうに結構なんで．いえ，飲めないんじゃないんですけれども，私も酒ゆえにこんな屑屋なんぞになりさがっちまったんで，へえ．もう一切，外ではお酒はいただかないてえことに決めておりますんで，夜帰りましてから，一合だけのおしきせを私がちびちび，こういただいて，お膳の周りを子供がおまんま粒だらけになってとっついているのを，おふくろが見て，ニコニコ，ニコニコ笑ってくれるんで，へえ．こんなになりまして，もう親孝行などもできませんが，せめて親に苦労をかけないのが，せめてもの親孝行だと思いまして，こんな弱い稼業をしているんでございますから，どうかすみませんが，その鉄砲ザルをどうぞ．

221　熊　：ちぇっ，いやに湿っぽいことばかり言ってやがるんだな，こんちきしょう．だからよ，飯だっていっぺえてえのはなんだな，もういっぺえな，キュッとやっていきねえ．もういっぺえ頼むから飲んでいきねえ．もういっぺえだけ頼むから．

222 屑　屋：ですけど，ほんとうにもう頂いたんですから．

223　熊　：じゃ，どうしても飲めねえのか，おい．俺が頼むてえのが，おめえ，いやなのかおい．どうしても飲め

224 屑　屋：いい，じゃ，じゃ，いただきます．そんなにほんとうに私は，いただ，じゃ，ほんとうに今度は半分ぐらい．あっあっ，そっとそっと．こんなに私はいただいた，じゃいただきます．へえ．＜飲む＞どうもごちそうさまです．じゃ，そのザルをいただいて．

225　熊　：なんだな，おめえのは味のねえ飲み方だな，どうも．なんだ，水を飲んでるようじゃねえか．ガブガブ，ガブガブ，ガブガブ．じゃ，もういっぺえだけ飲みな．えっ．

226 屑　屋：いや，ダメ，ダメ，だから，いやいやいや．

227　熊　：俺ももうくどいことは言わねえ．俺もな，あとは決して勧めねえから．もういっぺえおめえがここでキュッとやる．かけつけ三杯てえことがある．な，そして，今度は嘘じゃねえ，俺はおめえにこのザルを渡すから，そいつを持って，すっと商いにいきねえ，もういっぺえだけやんねえ．

228 屑　屋：もうほんとうに勘弁していただきたいんでございますが．あした釜の蓋があかないようなこと

229　熊　：だからわかってるから，もういっぺえ飲めってんだよ．なあ，おい，どうしても飲めねえか，おい．やさしく言ってるうちに飲みなよ．

230 屑　屋：じゃ，いただきます．えー，じゃ，ほんとうに．ああーっ，どうぞどうも．こんなに私はほんとうにいただいたことはないんですから，どうも．へえ．＜飲む＞フーッ．しかし，割合に良いお酒でございますな，これは．大家さんがこんなものを寄越すとは，私は思わない，ええ．なかなかくれるような人じゃないんですけれども．もっともたいてい驚きますからねえ，死人を連れてってカンカンのうを踊らしたって．へ．さっき，あの大家さんが，強情な人が顔色を変えて，やるやるやるやるやるって．私は目について，へっへっへっ，へへへ，へへへへへっ，へへっへへっ，よっぽど怖かったと見えるんですね，へへへっへっ．しかし，私はねえ，親方って方はほんとうに偉いと思ってます．いえいえ，お世辞じゃない．私はそんなお世辞なんぞを言える人間じゃない．えーほんとうにこの人の世話を焼いてやるてえのは，ある人でもなかなかそれはできないもんですからね，まして親方なんぞは何もなくて世話をしてやるってえ，ほんとうに私は偉い方

だと思って，へえ．こんなことを言うとおかしいんですが，私もやっぱり人が困るてえのを見ると，なんか黙っていられないんでね，手を出しちゃお袋によく叱られました．自分の頭のハエも追えないくせに，人の世話どころじゃない，なんてね，へへへへっ．こごとを言われますけども，やっぱり性分てえやつはしょうがありませんでね．ええ．どうもやっぱりおせっかいが焼いてみたくなってね，へへへ．＜飲む＞しかし，私もこの仏様じゃずいぶんいじめられました．ええ．なんでもないものを，「買え買え，買え買え」ってましてね．この前も来ると，「おい，屑屋」「へい」「たぬきの皮を，おめえ一枚買わねえかい」「そりゃ買ってもようがす」「いくらだ」「いくらだったって，そりゃ品物を見なきゃ分かりません」って言ったら「まあ，ごく悪い品物としていくらで買うんだ」って．「そりゃ，いくら悪くったって，たぬきの皮が一枚なら，一貫より下じゃ買わない」って，そう言ったんです．そしたら，「よし，売った．品物を見せるから，手付け五百出せ」って．どうも私も変だと思ったけどもね，しかしまあ，もし買えるとしたら，たぬきの皮が一貫で一枚ったら儲かるから，どうしようかと思ったけれども，まあ男は度胸だ，ねっ．あっしは五百渡したんだ．そのゼニをぺーっと引ったくるようにして表へ飛び出していきやがった．こいつはやられたなと思ったね．あっしはその時に，へえ．＜飲む＞しばらく経つとね，竹の皮包みとね，え，あ，すいません，おーっとっとっとっ，もういい，もういい，竹の皮包みと折りをぶら下げてけえってきてね．「やっとこさと酒にありついた．ああ，ありがてえ．ありがてえ．」って言いやがって，飲んでやがんだ．あっ，はんぺんがうまそうだね．はんぺんひとつもらおうじゃねえか．えへへ，ああ，どうも．うん，割合うまく煮てあるな．＜すーっすーっ，ちゅっちゅっ＞あっしはね，そう言ったんだよ．「おい，親方，冗談じゃねえてんだよね，人を待たしといて，悠々と飲んでちゃしょうがねえじゃねえか．こっちだって商売があるんだから，早くたぬきの皮を出してください」って言ったらね，「まあいい，そうせくなよ．今見せるからゆっくりしろ」って言いやがる．言いやがって，畳を上げて根太ひっぺがしやがってね，「こん中にへえってるから持ってけ」って言いやがんのさ．なんだか変だと思ったけどもね，こっちだってもう先五百払ってあるんだからね，どんなもんでも持っていかなきゃつまらねえと思うから，床下をこうのぞいてみたらね，なんにもねえんだよ．「親方，ねえじゃねえか」って言ったら，「そこじゃねえ，もっと奥の方だ，のぞけっ」て言いやがる．それから首を伸ばしてこうやるとたんに，後ろからけつんところをポーンと突きやがった．弾みをくって，俺は縁の下に落っこっちゃった．ねっ．それで，野郎，その上へぺっと畳を乗

っけて，上へあぐらをかいちまいやがった．これは冗談じゃねえってんだよ．「おい．そんな，ねえ，くだらねえことしねえで，たぬきの皮なんざねえじゃねえか」って言ったら「おめえのめえにある」ってえから「ねえ」って言ったら「ある，おめえのそこにへえっているもう少し先に穴があるだろう，そん中に年古く棲んでいるたぬきがあるから，そいつを捕まえて持ってけ」って，こう言いやがる．俺は「生きてちゃ嫌だてんだよ，ねえ，もうたぬきの皮はいらねえから，ここから出してくれ」って言ったら，「出すにはあとがねもう五百よこせ」．また五百取られた．とうとう一貫フイさ，ハッハッ，バカにしてやがんな，本当にもう．世の中にこんなね，人を食ったふてえ野郎ってのはありはしねえな．おっ，酒はねえぜ．おっ，ついでくれよ．おっ．おい．

231　熊　：おめえ，もうよしねえ．もういいから，よせよせ．なっ，ここにザルがある．風呂敷もあるから，こいつを持って商いにすぐ行け．

232 屑　屋：何を言ってやんだい．そんなことどうだっていいじゃねえか，酒つげってんだよ．

233　熊　：おめえ，なんだぞ．きょう 1 日休むと，六十三になるおふくろに十一をかしらに三人子供があって，1 日しょうべえしねえと，あした釜の蓋があかねえといけねえぞ．

234 屑　屋：なに，なにを．なんだ，釜の蓋があかねえとは．てやんでえ，チェッ．おう，はばかりながらなあ．はばかりながら，人間てえものは，雨降り風間病み患いってんだ．そのたんびに釜の蓋があかなくてどうするんだい．てやんでえ．どこの立て場でも行って聞いてくれ．屑屋の久六てばちっとは人に知られた男だ．なんだ，釜の蓋があかねえとは．

235　熊　：何もそんな怒ることはねえじゃねえか．だって，おめえが釜の蓋があかねえってえから，俺はそう言ったんだ．

236 屑　屋：チェッ，ケチケチするない，ちくしょう．てめえの酒じゃねえじゃねえか．俺が死人をしょっていって，カンカンのうを踊らしたからもらってきたんじゃねえか．酒がなくなったら，香典でもなんでも持ってって買ってこい，しみったれ野郎．つげったら，ついだらいいじゃねえか．おい，つぎなよ，おい．やさしく言ってるうちにつぎなよ．

237　熊　：なんだ，俺が言ったこっちゃねえか．おい，いいのか，でえじょうぶか．

238 屑　屋：何言ってやがるんだい，でえじょうぶもクソもあるかい．つげってんだよ，さっさと．こうなりゃ，俺はもうあきねえなんざしねえや，バカバカしい．おめえなにか，一人でこの仏の始末はつけられるのか，おい．

239　熊　：それも俺は考えてんだがな，俺はこう言うことはやりつけねえからな，一人でいってえどうしたらいいかと思って弱っちゃってんだ．

240 屑　屋：チェッ，意気地のねえこと言ってやがらあ，ちきしょう．俺はこういうことは慣れてんだ，なっ，おめえが頼むてんなら，俺が始末をしてやろうじゃねえか．

241　熊　：えっ，ほんとか．おい，えっ．そりゃありがてえや．じゃ，ひとつきょうでえ頼むわ．

242 屑　屋：頼む？ハハハハハハッ，頼むって言いやがったな，このやろ．ハハハ，よし，てめえが頼むてんなら，俺は引き受けて始末してやらあ．どうせこんな野郎だ，死んだって極楽行くやつじゃねえけれども，しかしまあ，せめて頭だけでもぐりぐりにしてやって，仏らしくしてやりてえや．えっ，床屋なんぞ頼みゃゼニがかかるから，カミソリをな，ここの家にはねえから借りてこい．このな，路地の奥へへえって左の中ほどだ．女が二人いらあ，な，そこへ行って，えー，なんだ，借りてこい．

243　熊　：借りてこいって，なんて借りるんで．

244 屑　屋：なんて借りるんじゃねえやな．らくだんとこから来ましたって，らくだの頭をやるんだから貸してくださいって言って．

245　熊　：だけど，俺は顔も知らねえんだけどな，向こうで貸すかな．

246 屑　屋：何を言ってやんだい．貸すも貸さねえもあるかい．ぐずぐず言ったら，死人を連れてきてカンカンのうを踊らせるって，そう言え．

247　熊　：なんだ，ものはあべこべじゃねえか．

248 屑　屋：早く行ってこい，ドジすけ．

249 語り手：さあ，脅かされて兄弟分てえのがもう飛び出してったが，カミソリを借りてきまして，どうせ酔ってるからろくなことはできやしないが，それでもどうやらこうやら坊主にして，これから樽の中に納めまして，縄をかけて天秤を通す．この上へ浴衣かなんか引っ掛けて，

250 屑　屋：さっ，これでいいや．じゃ，ひとつ落ち着いてやろうじゃねえか．

251 語り手：これからまた二人でしたたか飲んで，

252 屑　屋：おうおう，じゃいいや，この辺にしとこう．なっ，で，あとは酒が余ったら樽の横へぶら下げとけ，なっ．で，途中で飲みながら行こうじゃねえか．

253　熊　：なんだ，とむらいだか花見に行くんだかわからねえな．

254 屑　屋：ときになにか，寺はどこだ．

255　熊　：寺？らくだの寺なんざわからねえ．

256 屑　屋：わからねえったって，寺がなくちゃしょうがねえじゃねえ．おめえの寺はあんだろ．

257　熊　：俺の寺はあるかねえか，俺はそんなことは知らねえや．屑屋なんか，おめえどうだ，あんのか．

258 屑　屋：俺はあるけれども，ぐええが悪いんだ．二十年ばかりめえに親父が死んでい

っぺん行ったっきりでな，それからまるきり顔を出さねえんだから，どうも．あっ，じゃこうしよう．あのう落合の火葬場に行くとな，俺の友達で安公ってやつが隠亡でいるんだ．このめえ，あすんだ勘定は俺が立てけえてあるんだ．そいつを帳消しにして，この香典をみんなやって，ねえしょで焼いてもらおうじゃねえか.

259　熊　：そりゃありがてえや，どうも．よし，じゃどうする，そろそろ出かけるか.

260 屑　屋：ああ，出かける，出かける．じゃ，俺は案内役だから先棒だ，おめえ後棒だ．いいか，いいか，そら，どっこいしょときやがった．なっ，ええええ，いい心持ちだな，どうも，アッハハ，ほうらほうらほうらほうらっ来やがった，ほら．イヤアーアーアーア，来あらー，おーい，とむらいだとむらいだーい.

261　熊　：おいおい，おいおい，あんまり景気をつけるなよ，おい.

262 屑　屋：いいじゃねえ.

263　熊　：とむらいだって断らなくたっていいじゃない.

264 屑　屋：いってやんでえ．断らなきゃ沢庵と間違えられるじゃん．オラオラ，とむらいだとむらいだーいと来やがった．おーなんだあんちきしょう，女が笑ってやがる．何がおかしいんだ．とむらいだ．何を？ちくしょうめ．ママにしねえととむらいぶっかけるぞ，こんちきしょう．ハハハハハハッ．驚いて飛んでいっちまいやがった，どうも．おうおう，待って待って，ここは姿見橋ってんだ．ん，これからな，高田馬場に出て，あとはおめえうねうねうねうねした細い道だ．そいつを行って土橋を渡って，またもっとまっすぐに行くと突き当たるんだ．左へ行くと，新井の薬師出て，右に曲がると落合の火葬場だ．なっ，ええー，日本一の火屋だ．えー，とにかくな，この辺は道が悪いから気をつけな，いいか．グアラッ，あっ，いてえー.

265　熊　：どしたどした，どうした.

266 屑　屋：どしたって，ああいてえ．ああいけねえ，こんなとこに穴があいてやがら，どうも．雨が降って穴があきやがったんだよ．ああ，いてえ．でえじょうぶだ，でえじょうぶだ．てえしたことはねえ．とにかく右の肩ばかりでかついでちゃ，たまらねえや．おっ，肩かえるぜ.

267　熊　：ダメなんだよ．俺は左はまるきりダメだ．右だけなんだから.

268 屑　屋：なんだな，だらしのねえ野郎だな，どうも．じゃいいや，俺だけかえりゃ．少しびっこになるがいいか．よいしょ，そーら．そら見ねえな，肩を変えりゃ軽くなるじゃねえか，なっ．ほらほらほらほらと来やがった．おっ，あかりが見える．あそこだ，あそこだ．え，待ちねえ，待ちねえ．俺が今起こすから．おー，＜トントントン＞安さん，＜トントントントン＞いるかい，おーい，＜トントン＞安さん.

269 安　公：誰だ．えっ，久さんか．おーっ，どうしたよ，久さん，しばらくだな．上がれや，よく来たい，へえんねえ．いまいっぺえやってるところだ．おっ，飲まないかい．

270 屑　屋：ありがと．久しぶりだ．飲むけれどもな，おっ，こっちへへえれ，ぐずぐずしてねえで．これは俺のきょうでえ分でな，連れてきたんだ．

271 安　公：ま，ま，いっぺえ．

272 屑　屋：うんうん．おっ，ありがと，ありがと．久しぶりだな，おめえに少し頼みがあって来たんだがな．ちょいと仏おめえに頼むんだ，焼いてもらいてえんだ．切手なんざねえんだよ，切手がありゃ頼むとは言わねえやな．

273 安　公：このめえ，遊びに行ったゼニがあった．

274 屑　屋：あっ，あれはね，棒引くし，ここに香典があるからな，こいつはおめえにみんなやるから，まあ，ねえねえでひとつちょいとやってくれよ．

275 安　公：弱ったなあ，この頃はやかましいんだからな，えーっ．じゃまあまあ，いいよいいよ，ほかじゃねえ，おめえの頼みだから，よし，やってやらあ．子供か，えっ，子供か．

276 屑　屋：子供じゃねえや，大人だよ，うん．大人も大人もおお大人でな．じゃひとつ．すぐやるかい．

277 安　公：今．火はいいとこだから．どこだい，仏様は．

278 屑　屋：おっ，ここだ，ここだ．おっ，ここだ．

279 安　公：どこ．

280 屑　屋：桶へへえってら．

281 安　公：なんにもありゃしねえじゃねえか．

282 屑　屋：ねえことはねえ，あるよ．

283 安　公：あるったって，おめえ，なんだ，これは底が抜けてんじゃねえか，これは．

284 屑　屋：そうかあ，さっき肩をかえた時，バカに軽くなったと思ったら，あっ，いけねえ，落っことしちゃった．えーっ，やっけえだな，どうも．取りに行かなくちゃならねえ．よしよし，じゃ，おっ，早くしな早くしな，おい，なにぐずぐずしてんだよ，おい，早くしなよ．落っことしちゃったんだよ，ぐずぐずしていると誰か拾っていくといけねえや．

285　熊　：誰が拾うもんか．

286 屑　屋：待ちなよ，あーあー，土橋があったな．え，あ，土橋の近所で，確かこの辺で，俺は転んだと思うんだ．えーと，待ちねえ．

287 語り手：見回しますてえと，あの辺にはこの願人坊主というものがその頃たくさんおりましたもので，えー，これは願人坊主と言ったって坊さんじゃありませんが，ただ頭を丸めた乞食でございまして，これは今日は貰いがあって，したたかに飲んで，素っ裸で往来でぐうぐう寝ているところを，

288 屑　屋：おーおーおーおー，あったあった，あったあった，ここだ，えっ，こんなとこに落っこってやがるんだ，どうも．手数ばかりかけやがって，しょうがねえな，どうも．じゃ，俺は頭をなにするから，おめえはそっちに回んねえ，そっちそっち．うん．でな，こいつ持ち上げるから，いいか．

289　熊　：おっ，少し待て．

290 屑　屋：なんだ，さっきより少し大きくなったんじゃねえかな．ああー，夜露がかかってふやけちゃった．少しふやけ加減だな，これは．

291　熊　：じゃいいか，いいか，しっかり持て，いいか，おらっ．おっ，あったけえな，こりゃ．じいきであったまっちゃったんだな，これは．

292 屑　屋：どこだ，桶は．おうおう，ここだ，ここだ，よしよし．じゃ，今度は俺が後棒へ回るわな．えっ，大丈夫だ大丈夫だ．今度はへえらねえ，俺は押さえてるから．よし，おめえ先棒で，よし，どっこいしょっと来やがった．手数ばかりかけやがるんじゃねえか，な，冗談じゃねえ．ほんとにどうも．

293 願人坊主：うーん，うんうんうんうん．うーん，うんうんうんうんうん．

294 屑　屋：ナーンだ，こんちくしょう，唸るなよ，この．唸るやつがあるかい，黙ってろい．

295 願人坊主：どこい行くんだ．

296 屑　屋：なにを？

297 願人坊主：どこい行くんだ．

298 屑　屋：どこい行くんだって，焼き場へ行くんだい．

299 願人坊主：なにしに行くんだ．

300 屑　屋：なにしにいく？　てめえを焼きにいくんじゃねえか．

301 願人坊主：俺，焼かれるの嫌だ．

302 屑　屋：何を言ってやがんでえ，こんちくしょう．焼かれるの嫌だって言いやがら，生意気なこと言うない，このバカ．

303　熊　：おうおうおう，あんまり仏と喧嘩するなよ，おい．

304 屑　屋：喧嘩するわけじゃねえけど，おい．焼かれるのは嫌だなんて言いやがんだ．贅沢言ってやがら，ちくしょう．てすうばかりかけやがったくせに．

305 安　公：おうおう，来た来た，来た来た．

306 屑　屋：おうおう，安さん，安さん，おう，持ってきたよ．

307 安　公：どれだ，どれだ．これか？　おー，ずいぶんあけえホトケだな．

308 屑　屋：なんか染まっちゃったのかな，これは．赤くなりやがって．まあいいや，どうだい，火の加減はどうだ．

309 安　公：火の加減．待って，ああ，ちょうどいいや．おあつらえだ．いま火はちょうどいいとこだから，じゃ，すぐ放り込むか．

310 屑　屋：よし，放り込もう，いいか．

311 安　公：じゃ，おう，ちょいとおめえもそっちへ回れ，手伝え，いいか，ほら.
312 願人坊主：いてて，いてて.
313 安　公：なにを，くそ．いてえもクソもあるかい，こんちきしょう.
314 願人坊主：いて，いてて．おい，そんないてえことすんな，おお，待っ，待ってくれよ．おお．いってえ，ここはどこだ.
315 安　公：どこだ？　日本一の火屋だ.
316 願人坊主：ヒヤ？　あー，ヒヤでもいいから，もう一杯.

＊＊

【編集後記】『現象と秩序』第 20 号記念号をお届けします．第 1 号の刊行から 9 年半，準備期間を入れると，ほぼ丸 10 年になります．慣例により，総目次（発行順、著者名順）および，振り返り記事を掲載しました．振り返り記事の前半は堀田委員長が，後半は読者代表として松繁卓哉先生が書いて下さっています．どちらも力作ですし，一種の社会評論となっています．まずは，巻頭からお読み下さい．

本誌は「ハイブリッド」誌ですので，WEB 上で容易にバックナンバーをご覧頂けます．本号の「総目次」を見ながら，気になった論文をザッピングしてみるのは，いかがでしょうか（インターネット上では，カラー写真はカラーのまま掲載しています．きれいですよ）．

関連して，「ニュース」です．国立国会図書館は，2013 年 7 月以降，インターネット上の逐次刊行物も法規に則って収集しており，その無料公開もしています（収集は「オンライン資料収集制度」として実施しており，公開は「国立国会図書館デジタルコレクション（https://dl.ndl.go.jp/）」内で行っています）．『現象と秩序』誌もすでに収集対象となっており，現在は，国立国会図書館の館内限り公開ですが，近日中に，無制限一般公開になる見込みです．本誌が公開に使っている@ニフティのサーバーが停止しても，こちらの国立国会図書館での公開の方は継続され続けますので，お心覚え頂ければ幸いです．

本号には，通常の原稿も 4 篇が掲載されています．通訳が専門職として如何に高度なコミュニケーションを実践しているかを明らかにした飯田論文，落語の語りの比較研究の結果から「江戸の語り手はあくまでも俯瞰した立場をとるのに対し，上方の語り手は話の中にやや参与する姿勢がある」（かも）という不思議な特徴の発見に至りかかっている村中論文，精神障害者の居場所にかかわるモノグラフである遠部ほか論文，『走れメロス』の読解に社会学を積極導入しようとしている樫田論文，と今回も興味深い論文が集まりました．面白いと思った論文には，ご感想など頂戴できればうれしく思います．どうぞ今後も倍旧のご交誼を賜りますようお願い申し上げます．（Y.K.）

＊＊

『現象と秩序』編集委員会（2023 年度）　編集委員会委員長：堀田裕子（摂南大学）
編集委員：樫田美雄（摂南大学），中塚朋子（就実大学），加戸友佳子（摂南大学）
編集協力：村中淑子（桃山学院大学）

『現象と秩序』第 20 号　　2024 年　3 月 31 日発行

発行所　〒572-8508 大阪府寝屋川市池田中町 17-8
摂南大学　現代社会学部　樫田研究室内　現象と秩序企画編集室
電話・FAX）072-800-5389（樫田研），e-mail：　kashida.yoshio@nifty.ne.jp
PRINT ISSN　：2188-9848　ONLINE ISSN　：2188-9856
http://kashida-yoshio.com/gensho/gensho.html

＊＊